



2026年12月期第2四半期(中間期) 決算説明資料

2026年8月3日

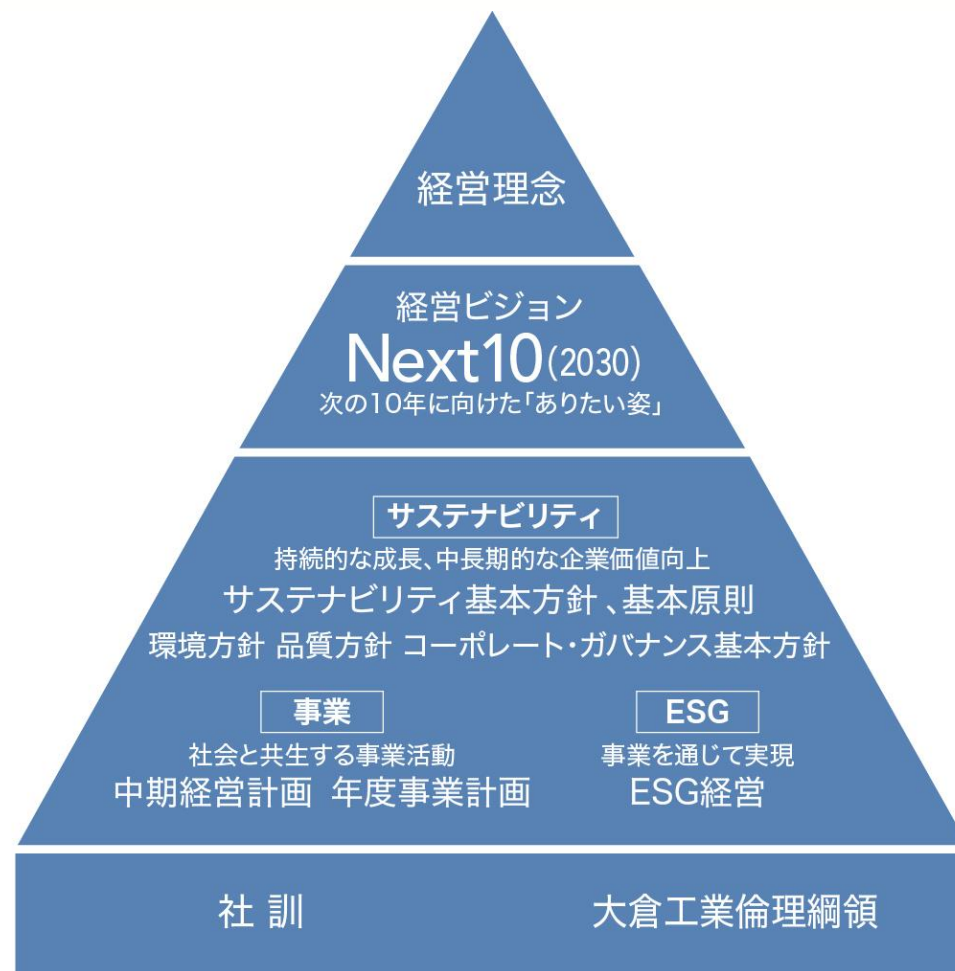


大倉工業株式会社

証券コード:4221

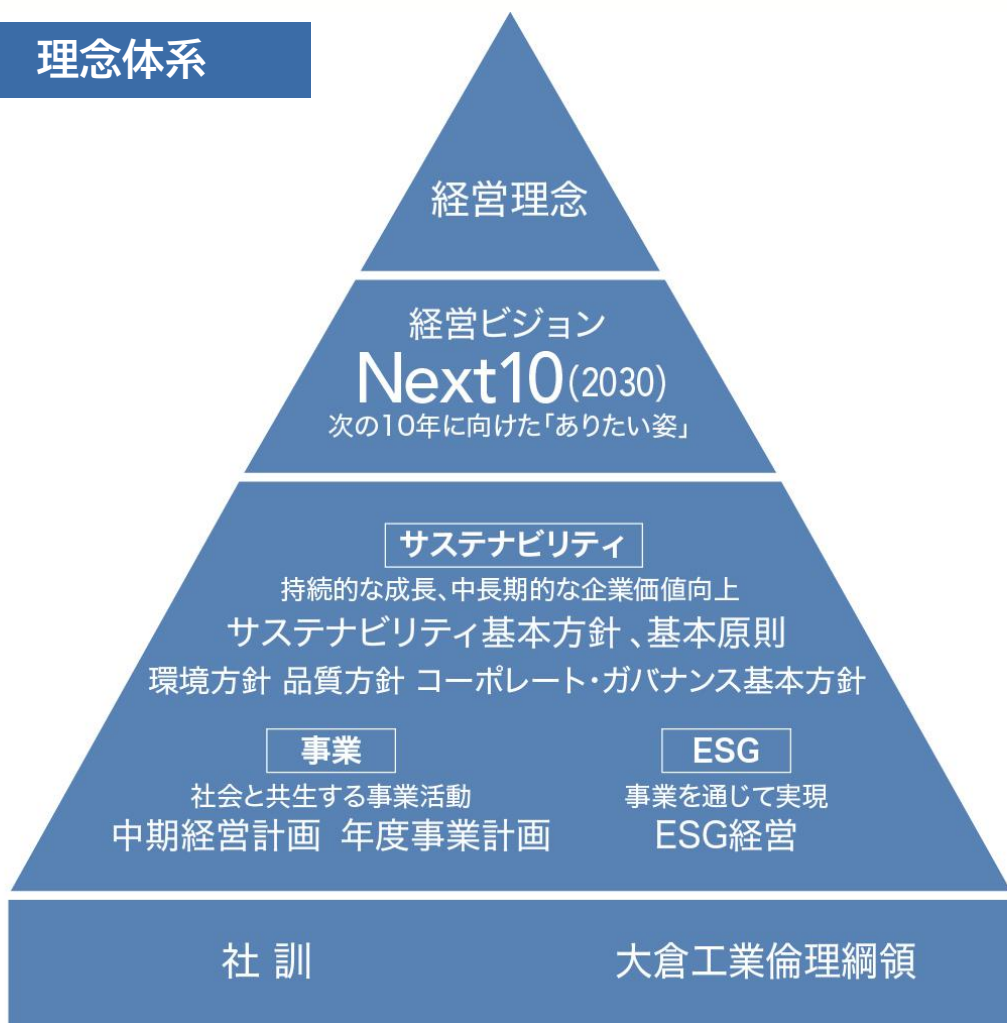
C O N T E N T S

1. 第2四半期(中間期)決算概要
2. 2026年12月期業績予想
3. 中期経営計画(2027)の進捗
4. 参考資料



大倉工業グループが目指す姿

理念体系



サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、
事業を通じて、
社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

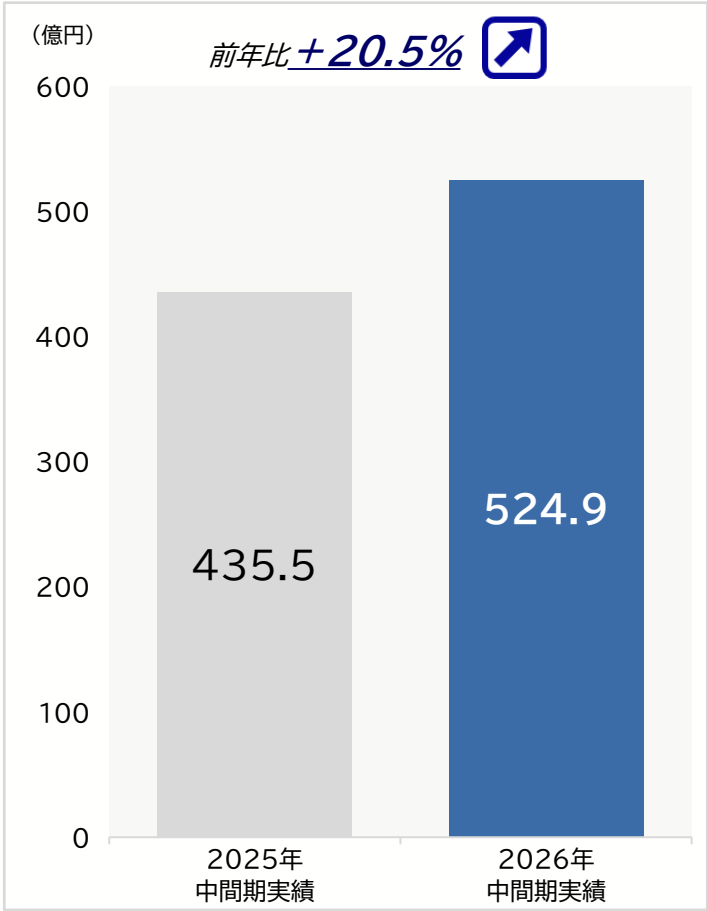
サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

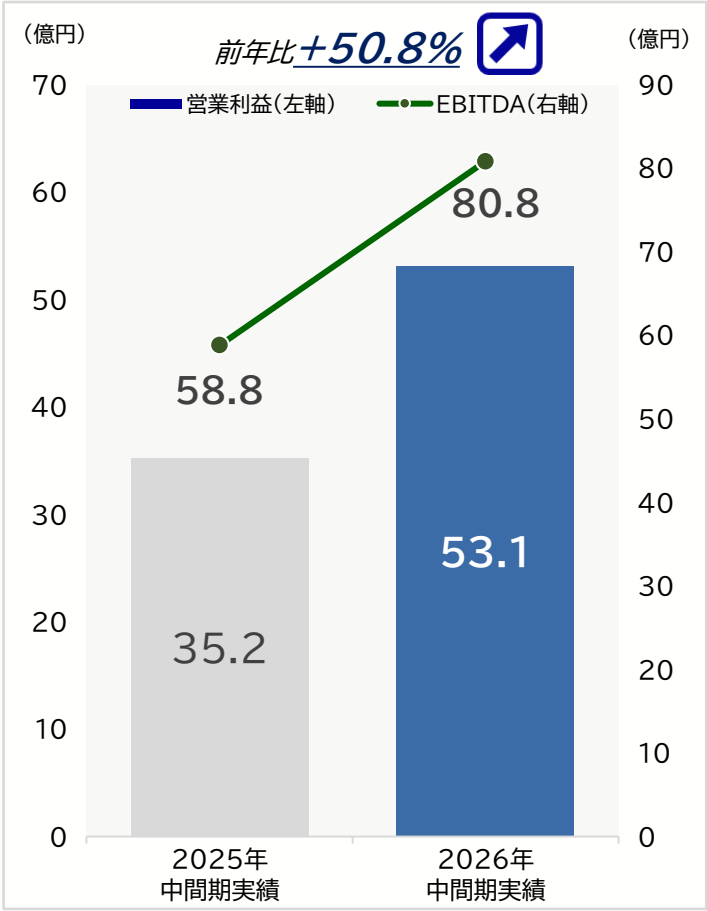
1. 第2四半期(中間期)決算概要

連結売上高、営業利益、経常利益、中間純利益、設備投資等

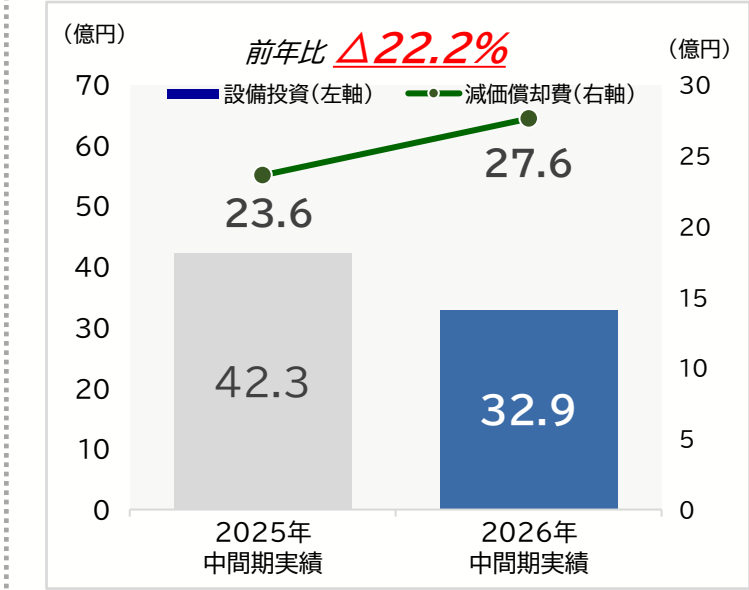
【連結売上高】



【連結営業利益】



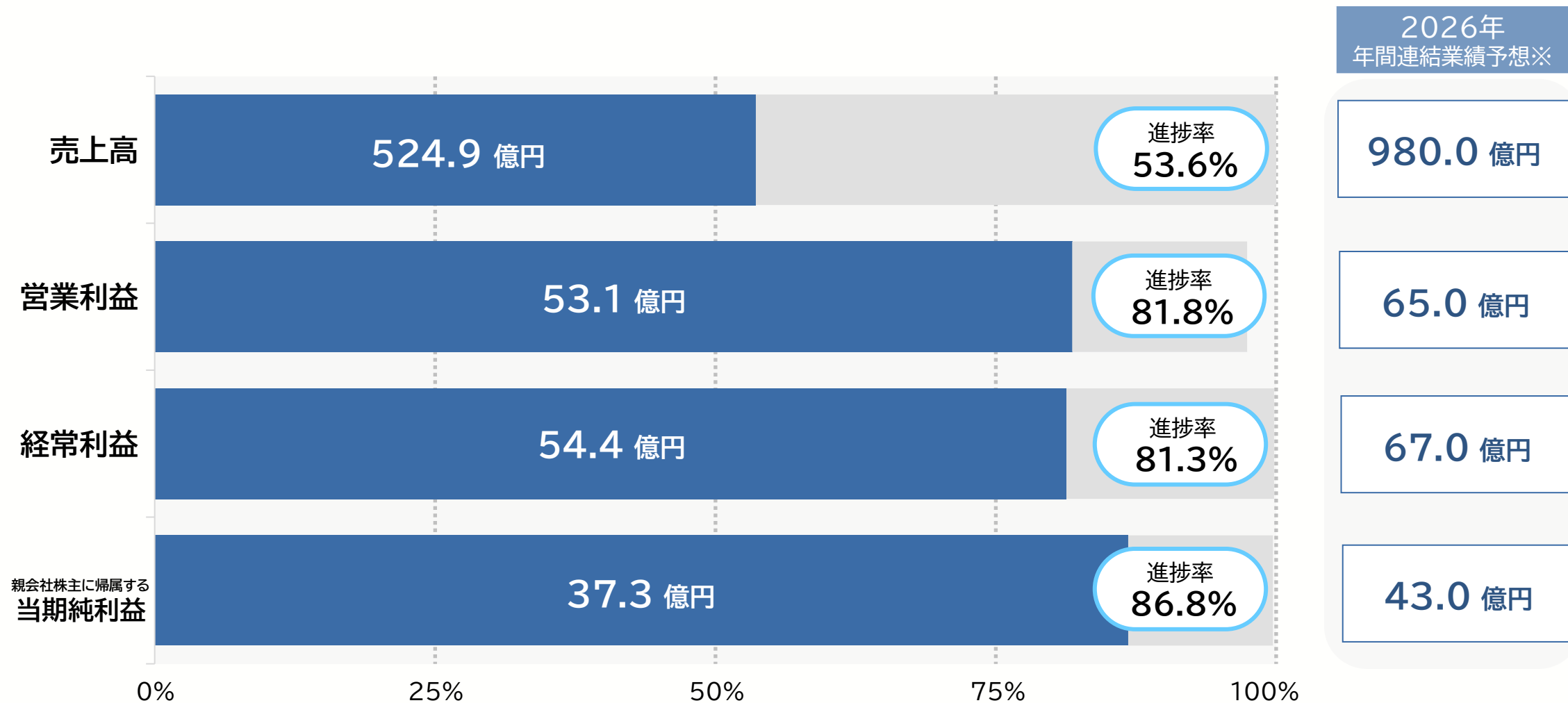
【連結設備投資】



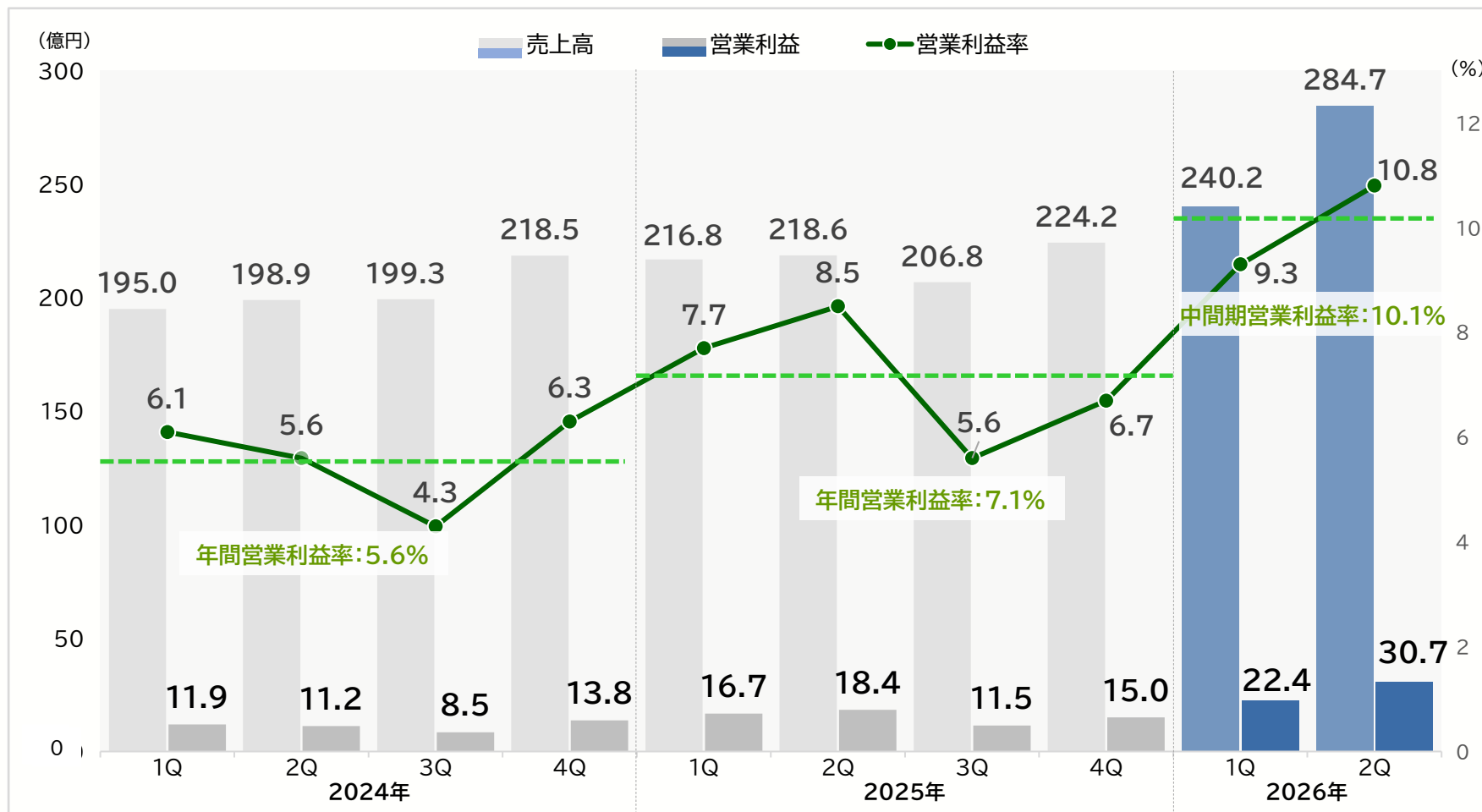
	2025年 中間期実績	2026年 中間期実績	前年比
経常利益	34.9	54.4	+55.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	25.5	37.3	+46.3%

対年間連結業績予想※進捗率

※2026年2月12日公表の当初予想



四半期別連結売上高、営業利益、営業利益率推移



2026年 業績サマリー

① 合成樹脂事業

- 中東情勢悪化の影響により、2Qから原材料価格が著しく高騰
- フジコーの連結子会社化により、増収増益
- 価格改定やコスト削減が寄与し、増益

② 新規材料事業

- 大型液晶テレビ向け光学フィルムが堅調に推移し、増収
- G2ラインは安定稼働を継続
- 光学フィルムの歩留まり改善による生産性向上で増益

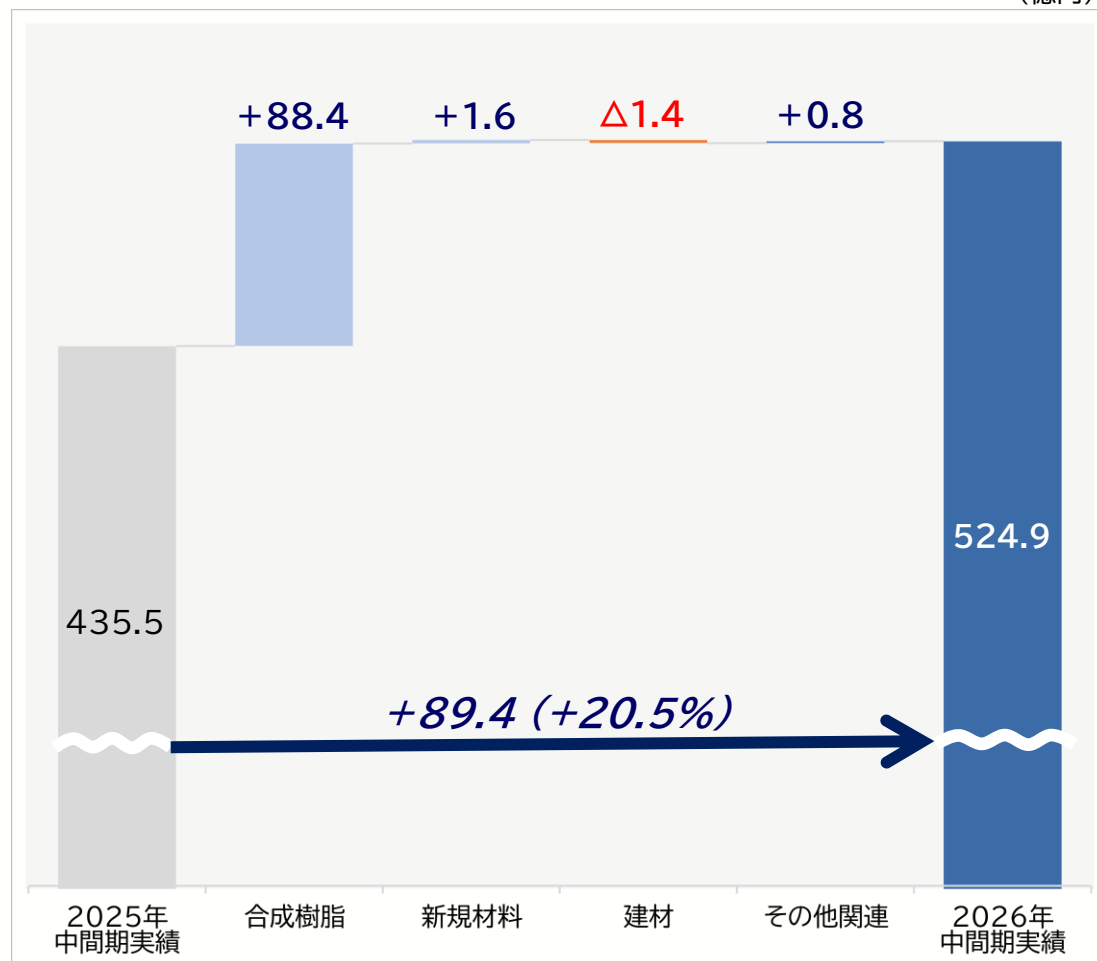
③ 建材事業

- パーティクルボードの一部製品の販売数量が減少し、減収
- 高瀬工場の稼働開始による、固定費等の増加で減益

事業別売上高、営業利益増減

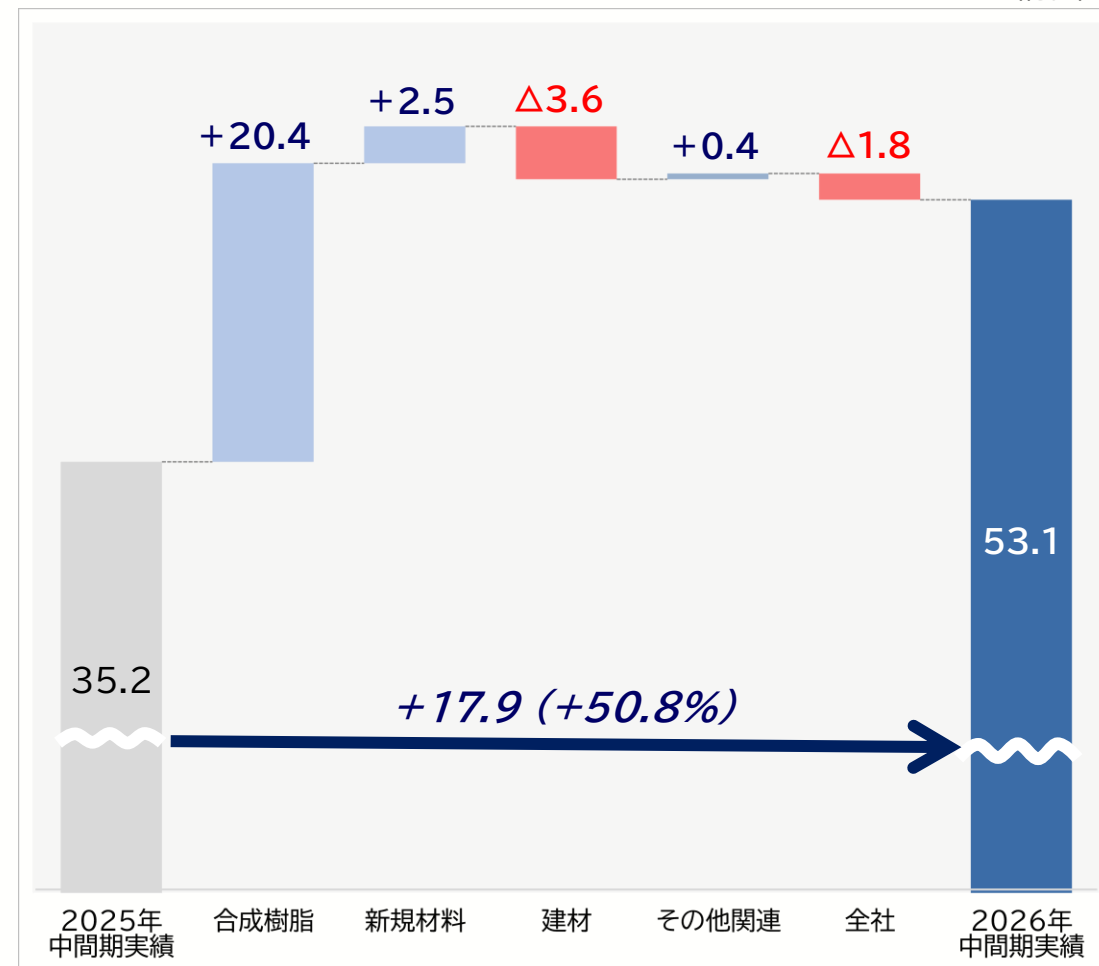
【連結売上高】

(億円)



【連結営業利益】

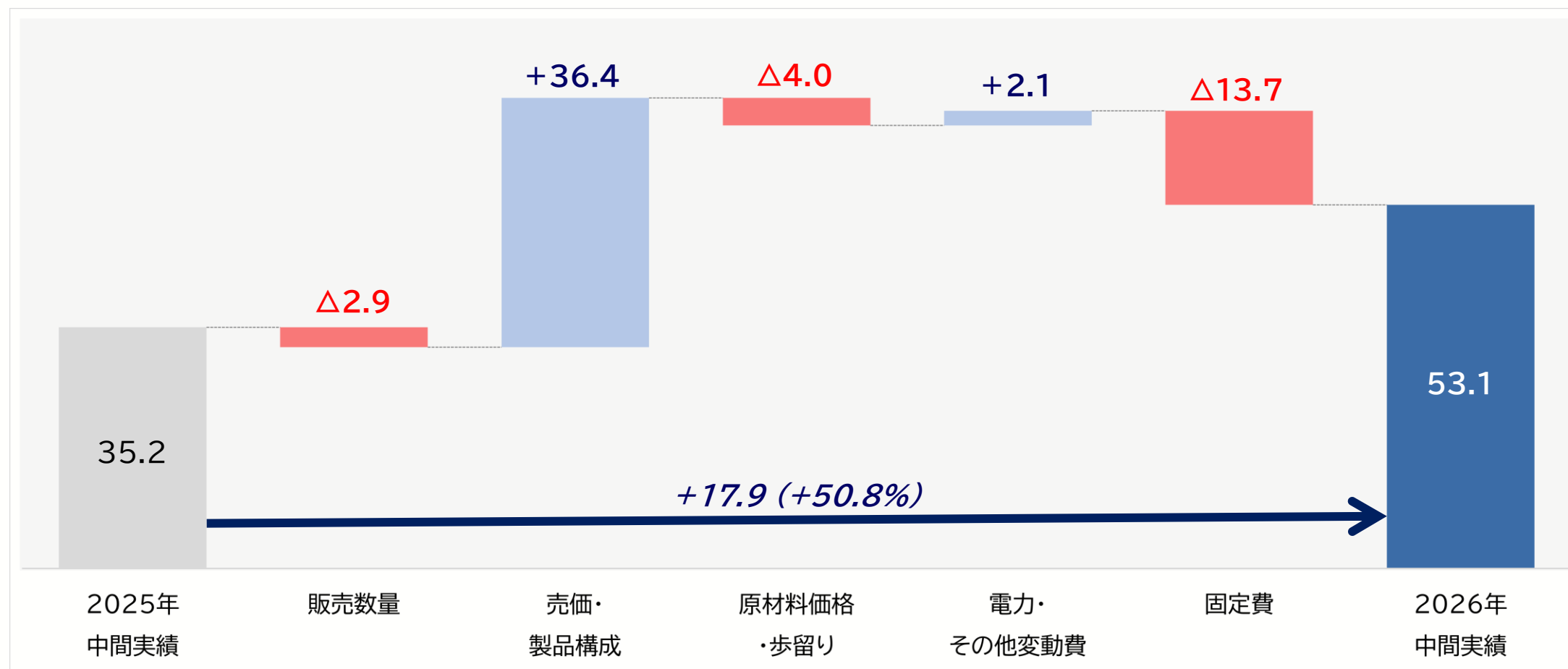
(億円)



連結営業利益増減

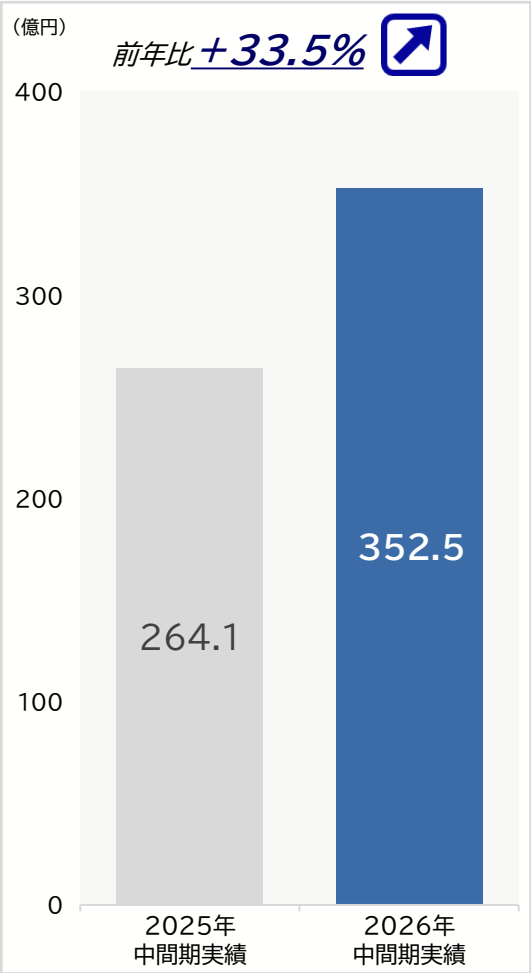
【連結営業利益】

(億円)

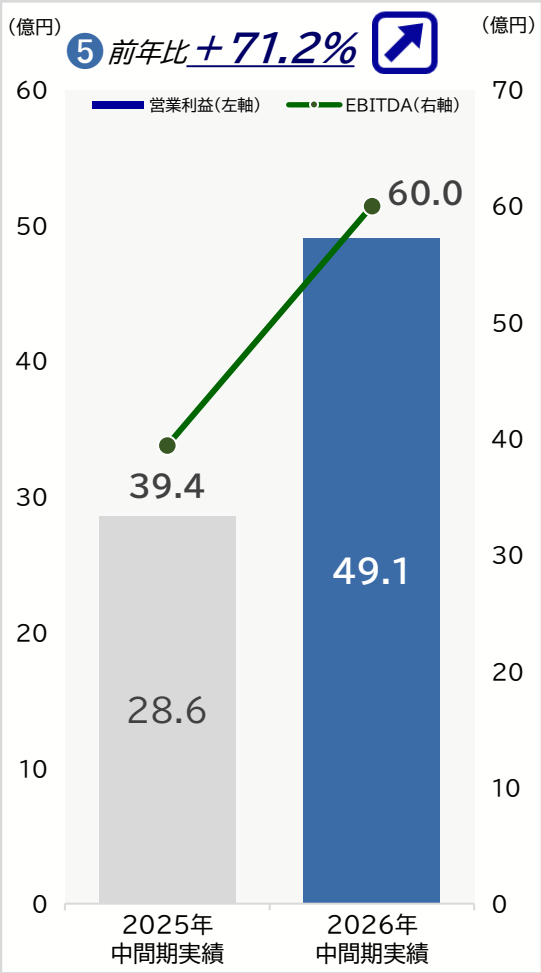


合成樹脂事業

【売上高】



【営業利益】



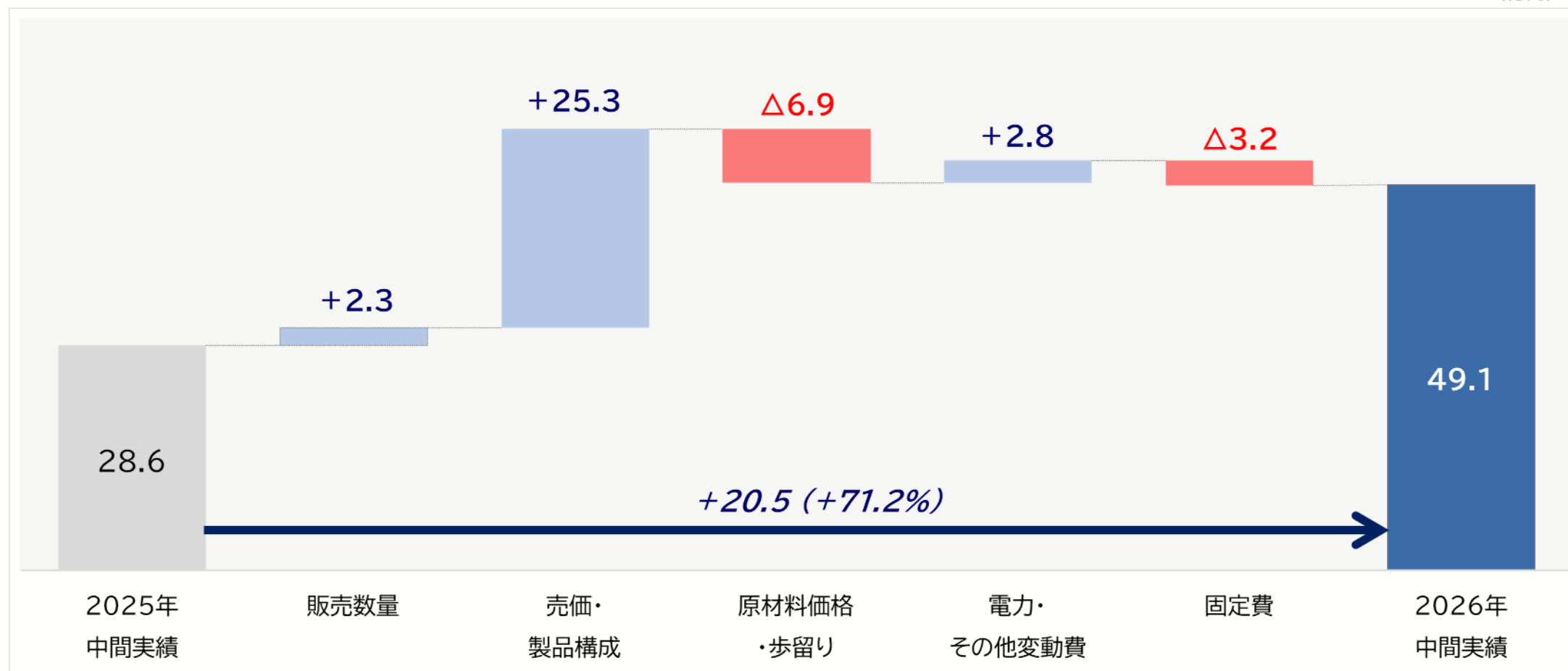
【BU別売上高】	2026年中間期実績 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージBU	10,143	① +8.5%
シュリンクフィルム	5,673	+12.1%
軟包材	3,241	△0.2%
リキッドパック	1,228	+18.7%
プロセスマテリアルBU	3,622	② +7.9%
ベーシックマテリアルBU	11,481	③ +14.7%
アグリマテリアルBU	3,729	④ +20.0%
その他	6,276	+969.1%
合計	35,253	+33.5%

- ① 詰替用パウチは低調なものの、シュリンク製品が堅調で価格改定により増収
- ② 光学用プロテクトは苦戦するも、自動車、電池、半導体関連が好調で増収
- ③ 中東情勢悪化に伴う供給不安に起因する仮需もあり増収
- ④ 量販店向けの拡販や中東情勢悪化に伴う仮需により増収
- ⑤ 中東情勢悪化に伴う仮需影響や販売価格改定により増益

合成樹脂事業

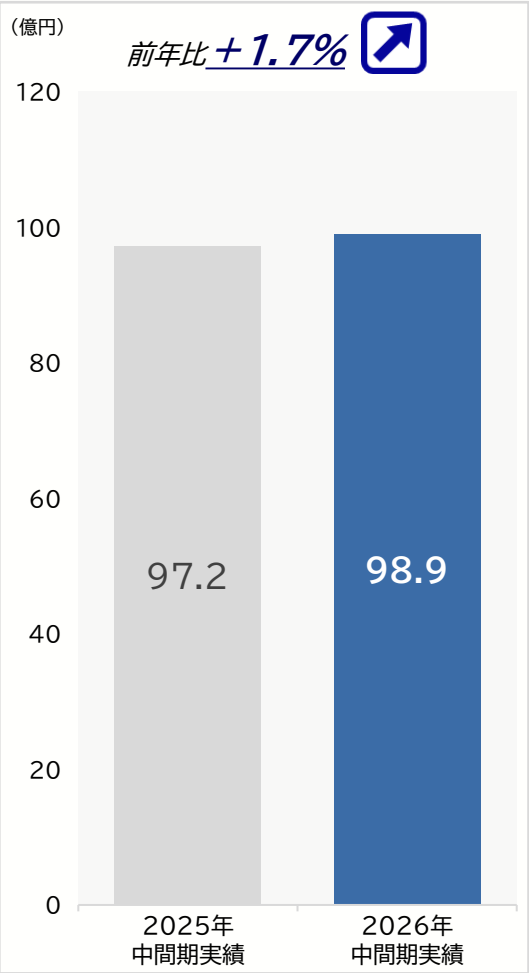
【営業利益】

(億円)

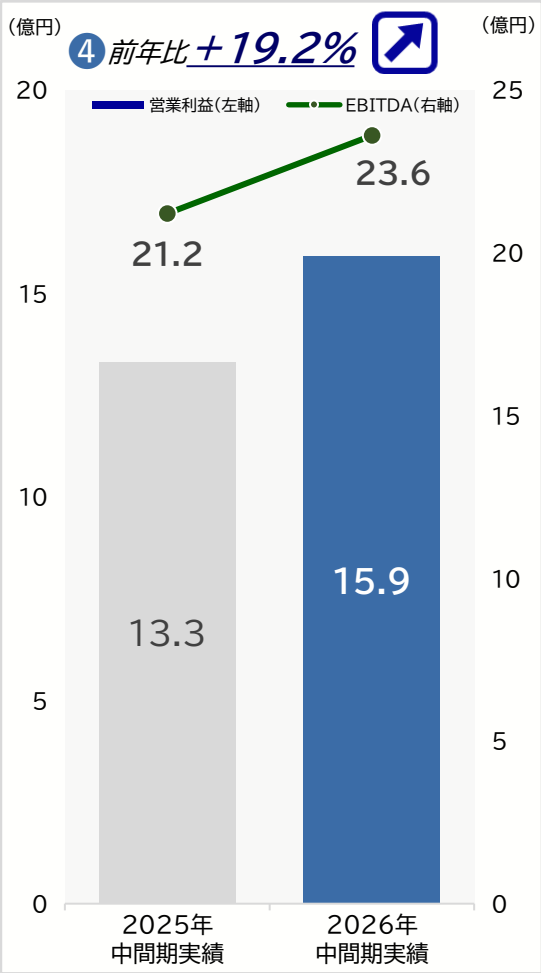


新規材料事業

【売上高】



【営業利益】



【BU別売上高】	2026年中間期実績 (百万円)	前年比
機 能 材 料 B U	1,409	① Δ12.7%
電 子 材 料 B U	1,488	② +16.1%
光 学 材 料 B U	7,204	③ +6.3%
商 品 他	68	+32.8%
消 去 ・ 組 替	Δ279	—
合 計	9,892	+1.7%

- ①

自動車用途の機能材料フィルムの需要が低調に推移し減収
- ②

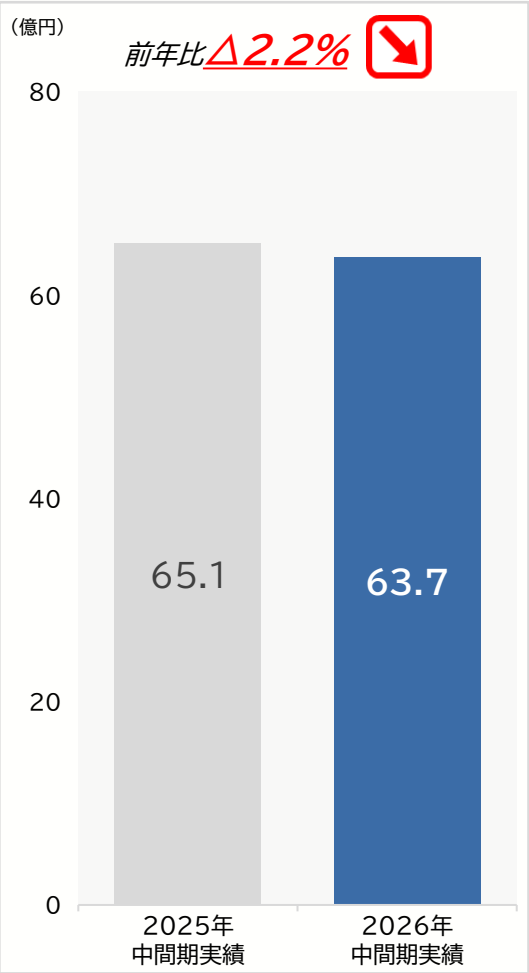
高機能性の車載用フィルムを中心に、精密塗工事業の加工数量が増加し増収
- ③

大型液晶ディスプレイ向け光学フィルムが堅調に推移し増収
- ④

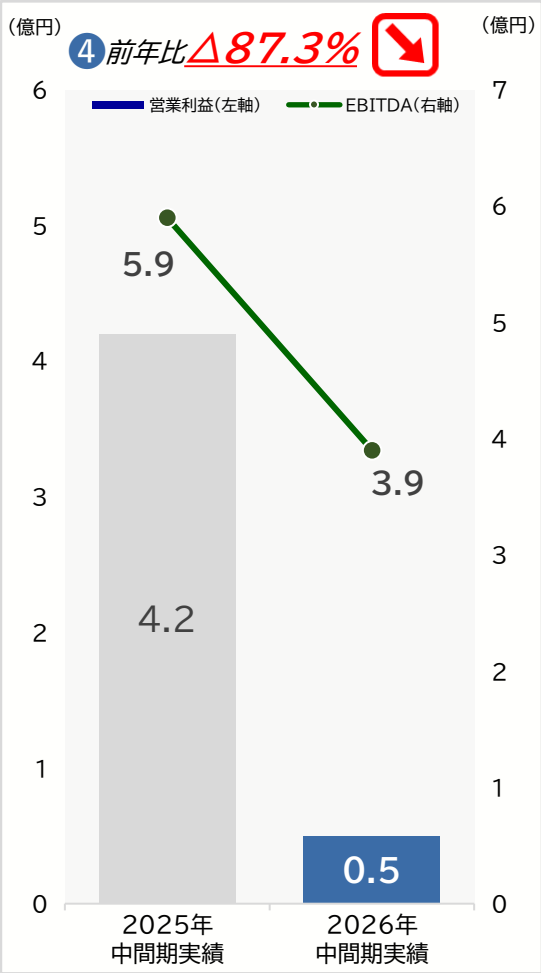
生産性の向上などによるコスト削減が寄与し増益

建材事業

【売上高】



【営業利益】

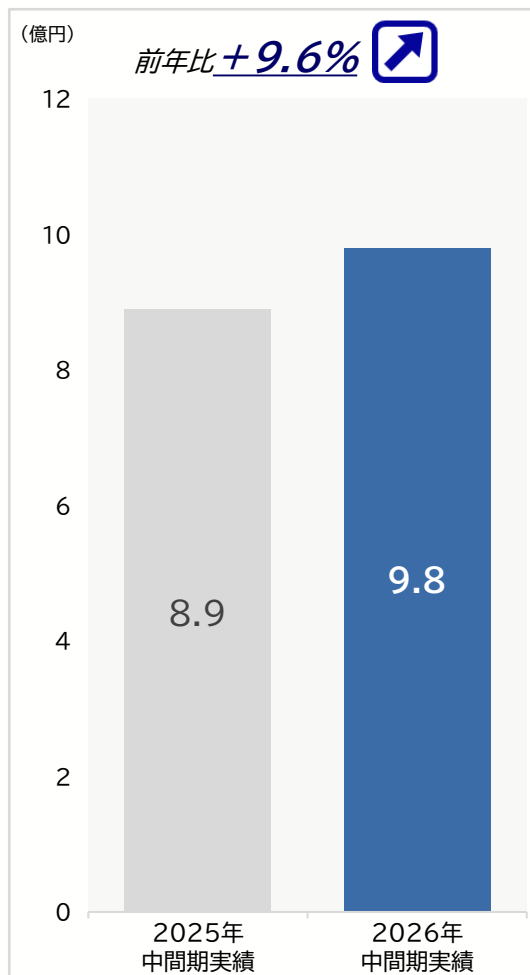


【製品別売上高】	2026年中間期実績 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	4,044	① Δ3.5%
環境資材製品	248	Δ10.1%
集成材製品	36	—
ハウス事業	614	② Δ2.6%
プレカット事業	1,538	③ +0.4%
オークラBMワークス	139	—
消去・組替	Δ247	—
合計	6,373	Δ2.2%

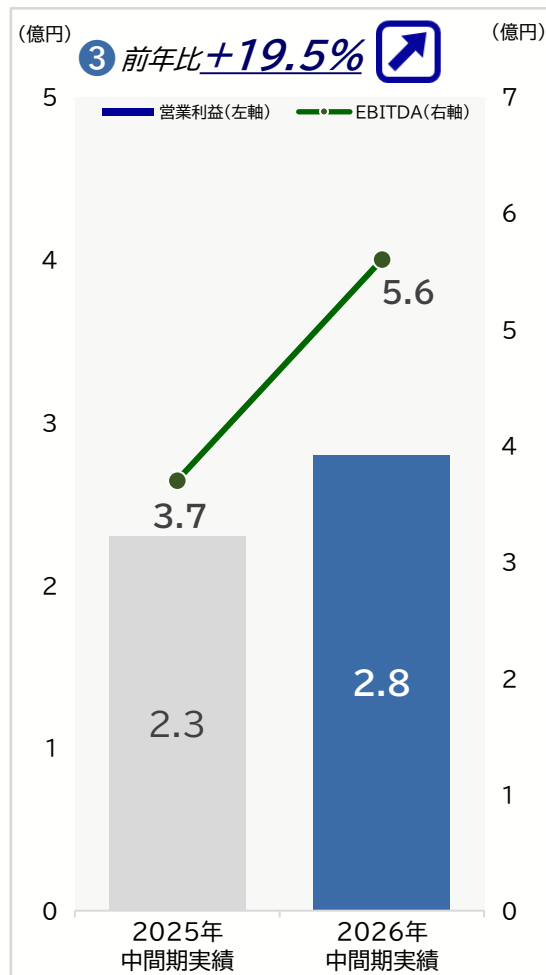
- ① 一部パーティクルボード製品の販売構成の見直しにより減収
- ② リフォーム関連需要は引き続き好調も、住宅着工戸数減少の影響により、建物販売が減少
- ③ 非住宅物件の拡販もあり、前年並みに推移
- ④ 売上高の減少と高瀬工場の稼働に伴う費用増加により減益

その他関連事業

【売上高】



【営業利益】



【事業別売上高】	2026年中間期実績 (百万円)	前年比
ホ テ ル 事 業	459	① +2.4%
情 報 処 理 事 業	1,051	② +34.4%
賃 貸 事 業	384	+30.0%
消 去 ・ 組 替	△915	—
合 計	980	+9.6%

① インバウンドによる宿泊が増加し、増収

② グループ内向けの販売が増加及び、調剤薬局向けシステムの販売台数が増加し、増収

③ 売上高の増加により増益



連結損益計算書

(億円)

	2025年 中間期実績	2026年 中間期実績	増減額	主な内訳
売上高	435.5	524.9	+89.4	
営業利益	35.2	53.1	+17.9	
営業外収益	2.4	3.1	+0.7	【当期】為替差益:0.4
営業外費用	2.7	1.9	△0.8	【前期】為替差損:1.3
経常利益	34.9	54.4	+19.5	
特別利益	0.0	0.0	+0.0	
特別損失	0.4	0.8	+0.3	
税金等調整前 中間純利益	34.4	53.6	+19.2	
法人税等	8.9	16.4	+7.3	
親会社株主に帰属する 中間純利益	25.5	37.3	+11.8	

連結貸借対照表

(億円)

		2025年 期末実績	2026年 中間期実績	増減額	主な増減
資産の部	流動資産	526.6	673.4	+146.7	【流動】売上債権: +66.8 【流動】現金及び預金: +54.2 【固定】有形固定資産: +47.1
	固定資産	503.7	551.5	+47.7	【流動】棚卸資産: +27.7 【固定】長期貸付金: △11.6
	資産合計	1,030.4	1,225.0	+194.5	
負債の部	流動負債	344.7	393.7	+48.9	【流動・固定】借入金: +131.8
	固定負債	54.3	176.9	+122.5	【流動】仕入債務: +45.2
	負債合計	399.0	570.6	+171.5	
純資産の部	純資産合計	631.3	654.4	+23.0	利益剰余金: +23.1 その他有価証券評価差額金: △0.6
自己資本比率		61.2%	53.4%	△7.9P	
借入金残高		67.3	199.1	+131.8	

連結キャッシュ・フロー計算書

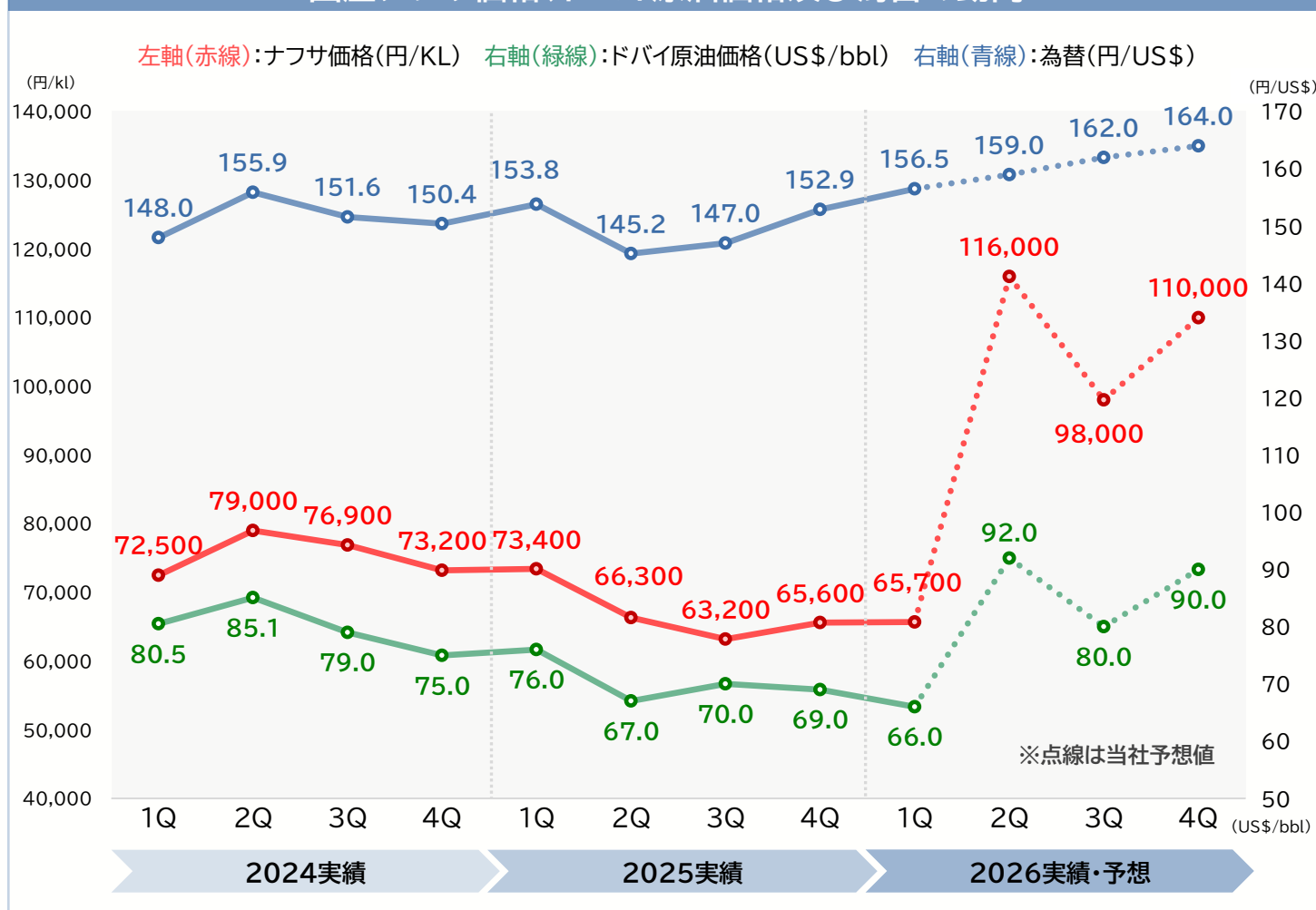
(億円)

	2025年 期末実績	2025年 中間期実績	2026年 中間期実績	2026年中間期の主な増減要因 (2025年期末対比)
現金及び現金同等物 期首残高	89.4	89.4	79.8	
営業活動による キャッシュ・フロー	99.0	77.2	30.7	税金等調整前中間純利益による資金増: +53.6 減価償却費による資金増: +27.7 売上債権の増加による資金減: △39.5 棚卸資産の増加による資金減: △18.0
投資活動による キャッシュ・フロー	△79.7	△41.2	△82.5	製造装置等の有形固定資産の取得による資金減: △50.1 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による資金減: △25.9
財務活動による キャッシュ・フロー	△29.0	△26.6	103.8	借入金の増加による資金増: +115.0 配当金の支払による資金減: △11.2
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減	-	-	2.0	
現金及び現金同等物 期末残高	79.8	98.6	134.0	

2. 2026年12月期業績予想

原材料価格・為替の動向と当社の対応

国産ナフサ価格、ドバイ原油価格及び為替の動向



- 2月末以降の中東情勢緊迫化により、調達環境が急激に悪化し、原材料価格が急騰
- 主力の合成樹脂事業において、収益面への不透明感が高まる状況に直面

これに対する当社の対応

- 国内外に多数の調達先を確保することで、安定的な操業を継続
- 特定の原材料が不足の際も、原料配合の知見や技術力を強みに、最適な代替品を提案
- 原料価格高騰によるコスト増加分を適時、製品価格に反映し、利益を適正に維持・確保

「安定的な調達基盤」、「柔軟な製品設計」、
「機動的な価格改定」、「着実な構造改革」

の相乗効果により、シェア向上と安定した収益を確保

年間業績予想・配当予想の上方修正

(億円)

増収



フジコーの連結子会社化が寄与

大幅増益



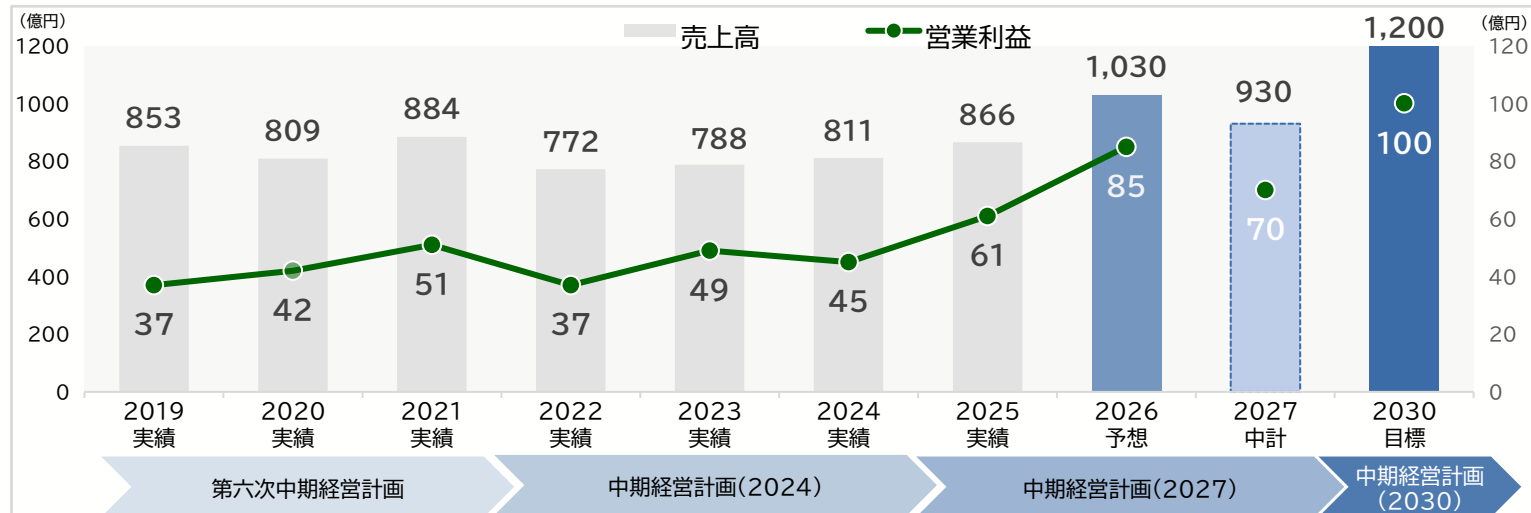
価格改定、生産性の向上などによるコスト削減を推進

増配



堅調な業績を受け、株主還元の拡充を実施

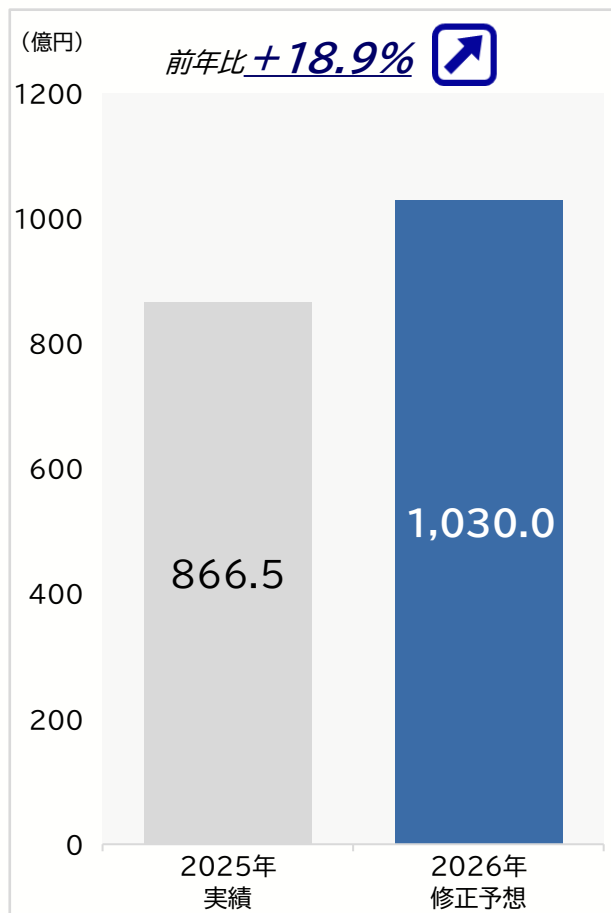
	2025年	2026年			
	実績	当初予想	修正予想	当初予想増減額	当初予想増減率
売上高	866.5	980.0	1,030.0	+50.0	+5.1%
営業利益	61.8	65.0	85.0	+20.0	+30.8%
(営業利益率)	7.1%	6.6%	8.3%	+1.7P	-
経常利益	64.2	67.0	87.0	+20.0	+29.9%
当期純利益	38.1	43.0	57.5	+14.5	+33.7%
1株当たり配当金	195円	220円	240円	+20円	-



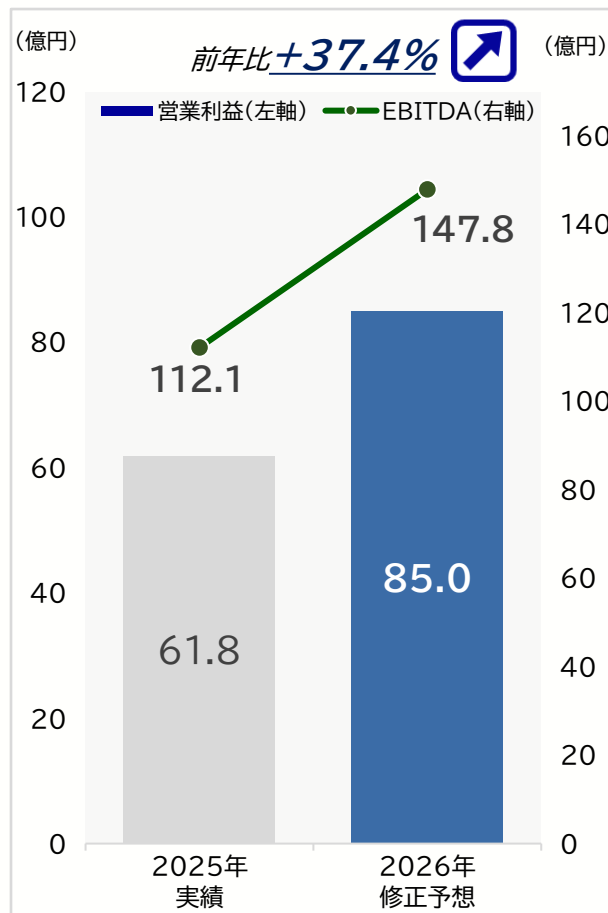
営業利益、経常利益、当期純利益
すべて過去最高益の見通し

連結売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、設備投資等

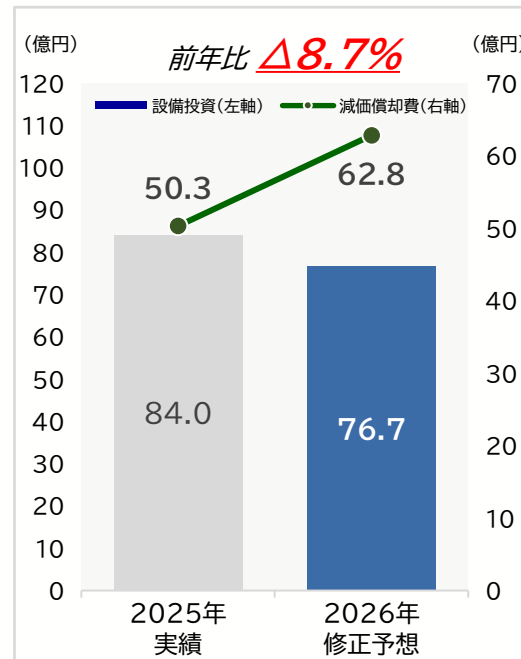
【連結売上高】



【連結営業利益】



【連結設備投資】



主な設備投資案件

- ① 建材事業**
四国地域材を活用した
木質構造材料事業:11.2億円
- ② 新規材料事業**
光学フィルム製造設備改造
:2.8億円
- ③ 合成樹脂事業**
アグリマテリアルフィルム
製造設備:1.8億円

	2025年実績	2026年修正予想	前年比
経常利益	64.2	87.0	+35.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	38.1	57.5	+50.7%
1株当たり配当金	195円	240円	+45円

事業別売上高、営業利益、EBITDA、設備投資

【売上高】

(億円)

	2025年 実 績	2026年 修正予想	前年比	2026年 中間期実績	対年間修正 予想進捗率
合成樹脂事業	526.7	677.0	+28.5%	352.5	52.1%
新規材料事業	189.2	195.0	+3.0%	98.9	50.7%
建材事業	131.8	138.0	+4.7%	63.7	46.2%
その他関連事業	18.7	20.0	+6.8%	9.8	49.0%
合 計	866.5	1,030.0	+18.9%	524.9	51.0%

【EBITDA】

(億円)

	2025年 実 績	2026年 修正予想	前年比	2026年 中間期実績	対年間修正 予想進捗率
合成樹脂事業	77.6	103.9	+33.9%	60.0	57.8%
新規材料事業	40.8	46.0	+12.5%	23.6	51.3%
建材事業	9.1	13.5	+47.6%	3.9	29.2%
その他関連事業	7.6	10.4	+36.6%	5.6	54.3%
全 社 費 用	△23.1	△26.0	—	△12.4	—
合 計	112.1	147.8	+31.8%	80.8	54.6%

【営業利益】

(億円)

	2025年 実 績	2026年 修正予想	前年比	2026年 中間期実績	対年間修正 予想進捗率
合成樹脂事業	55.2	77.0	+39.4%	49.1	63.8%
新規材料事業	24.8	30.0	+20.9%	15.9	53.2%
建材事業	5.6	4.5	△20.2%	0.5	11.8%
その他関連事業	4.7	5.0	+5.5%	2.8	56.4%
全 社 費 用	△28.5	△31.5	—	△15.2	—
合 計	61.8	85.0	+37.4%	53.1	62.6%

【設備投資】

(億円)

	2025年 実 績	2026年 修正予想	前年比	2026年 中間期実績	対年間修正 予想進捗率
合成樹脂事業	17.2	28.4	+65.2%	7.8	27.4%
新規材料事業	8.7	18.4	+109.3%	5.1	28.1%
建材事業	39.2	22.7	△42.0%	16.5	72.5%
その他関連事業	8.2	2.9	△63.6%	2.2	76.3%
全 社 費 用	10.5	4.0	△61.5%	1.1	29.3%
合 計	84.0	76.7	△8.7%	32.9	43.0%

重点取組みの進捗と今後の対応

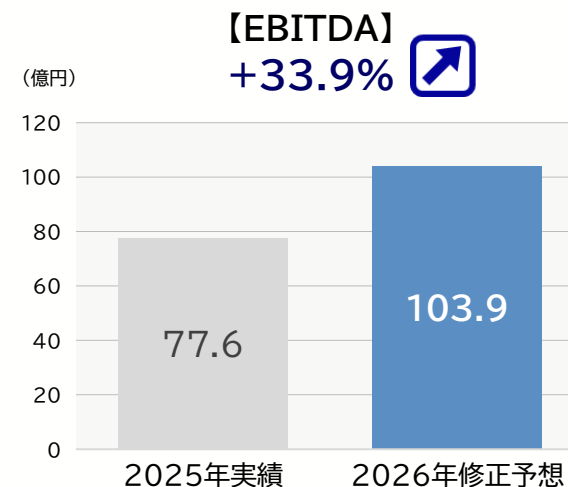
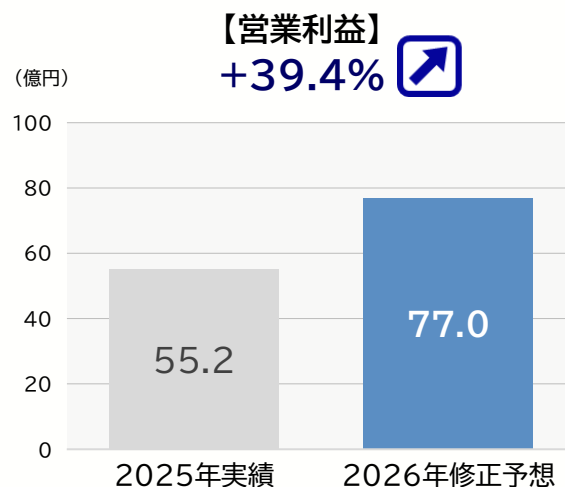
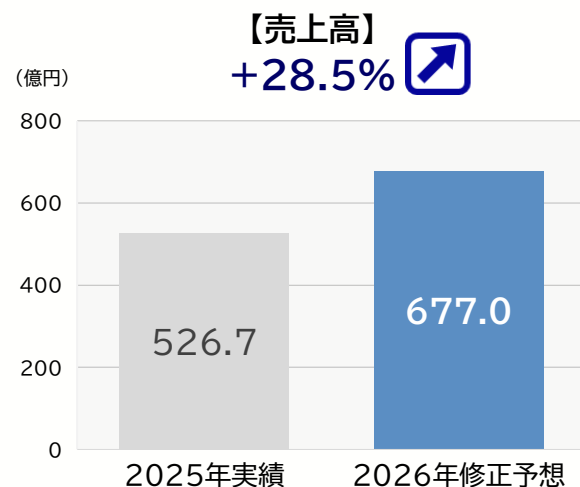
合成樹脂事業

重点取組みの進捗

- プロセスマテリアルBUでは、光学プロテクトフィルムの品質確立と拡販体制構築により、販売拡大を推進
⇒ 品質改善が実現できたため、今後ユーザーでの評価予定
- ライフ&パッケージBUでは、シュリンクフィルムの新用途・新形態の確立と詰替用パウチ市場のプレゼンス向上
⇒ シュリンクフィルムは、上市に向けてユーザー評価中。詰替用パウチは競争力強化に向けた構造改革を推進

下期の取組み

- 当社独自の原料調達力を活かし、顧客の生産活動に支障が生じないよう安定的な製品供給に注力
- 丸亀地区の2工場を丸亀工場として統合し、経営資源の効率化による競争力強化を図る



重点取組みの進捗と今後の対応

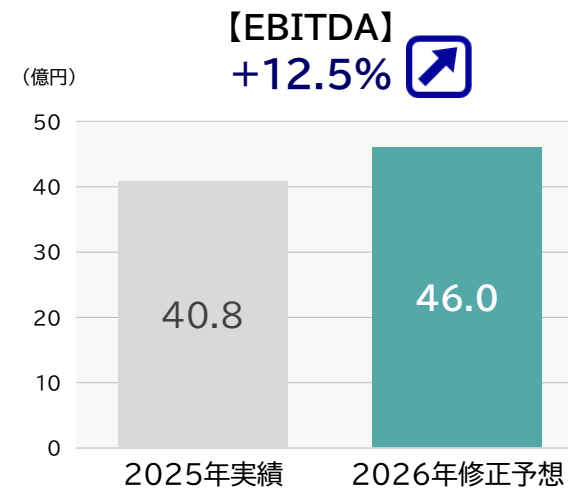
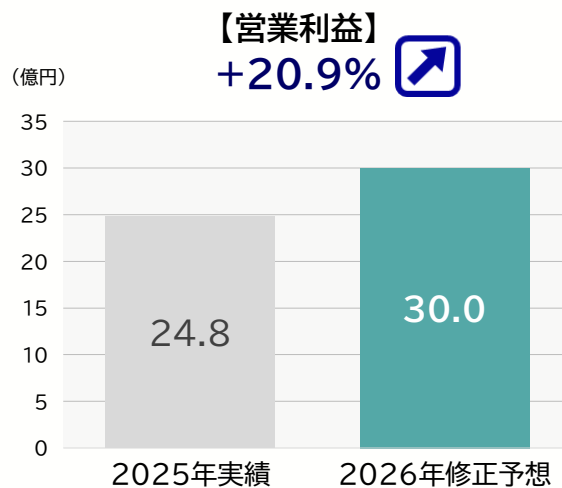
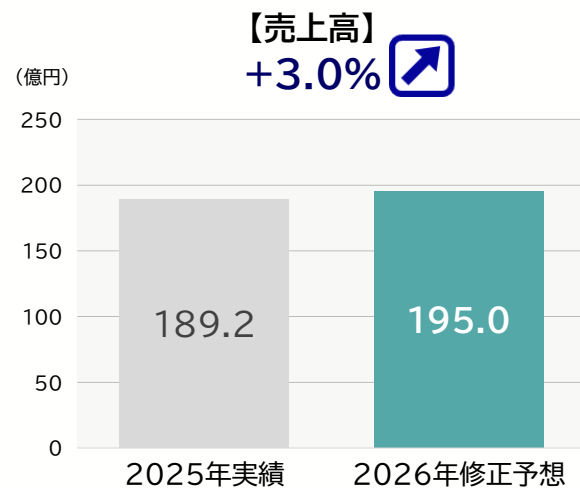
新規材料事業

重点取組みの進捗

- G2ラインの年間安定稼働の維持と更なる品質向上
⇒ G2ラインは生産効率が上がり、安定稼働を継続中
- 光学フィルム全体での生産性の向上とCOPフィルム、アクリルフィルムの拡販強化
⇒ COPフィルムの需要は低調に推移も、アクリルフィルムが好調を維持

下期の取組み

- G2ラインは、増速と歩留まり改善によって収益性を向上させ、継続的な利益体質を構築
- 光学フィルム生産ライン全体で生産最適化を行い、売上高、利益の最大化を図る



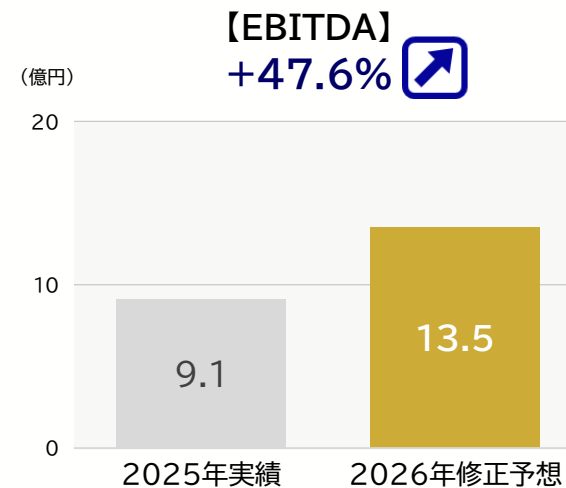
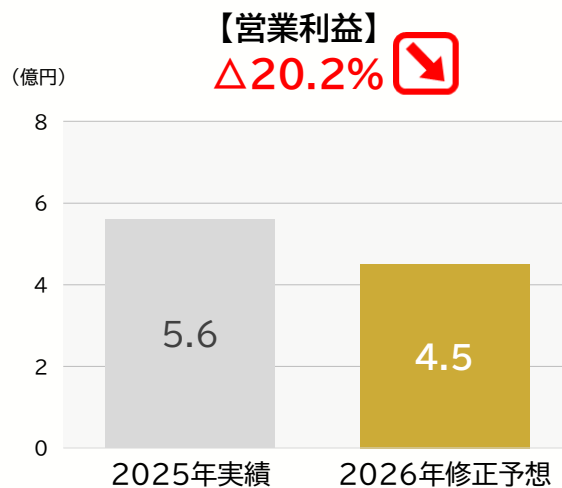
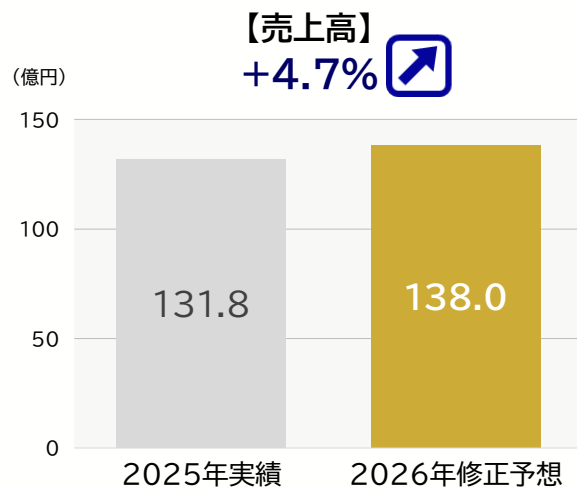
重点取組みの進捗と今後の対応 建材事業

重点取組みの進捗

- パーティクルボード事業では、表面平滑性や耐水性という特長を強みに、リフォーム市場への拡販を推進
⇒ 受注獲得に繋がった案件もあり、更なる拡販を推進
- 木質構造材料事業では、製造体制の確立、国産構造材の認知浸透、及びユーザー確保に注力
⇒ 高瀬工場の稼働を開始し、安定生産を継続。販売面では新規顧客の内定を獲得

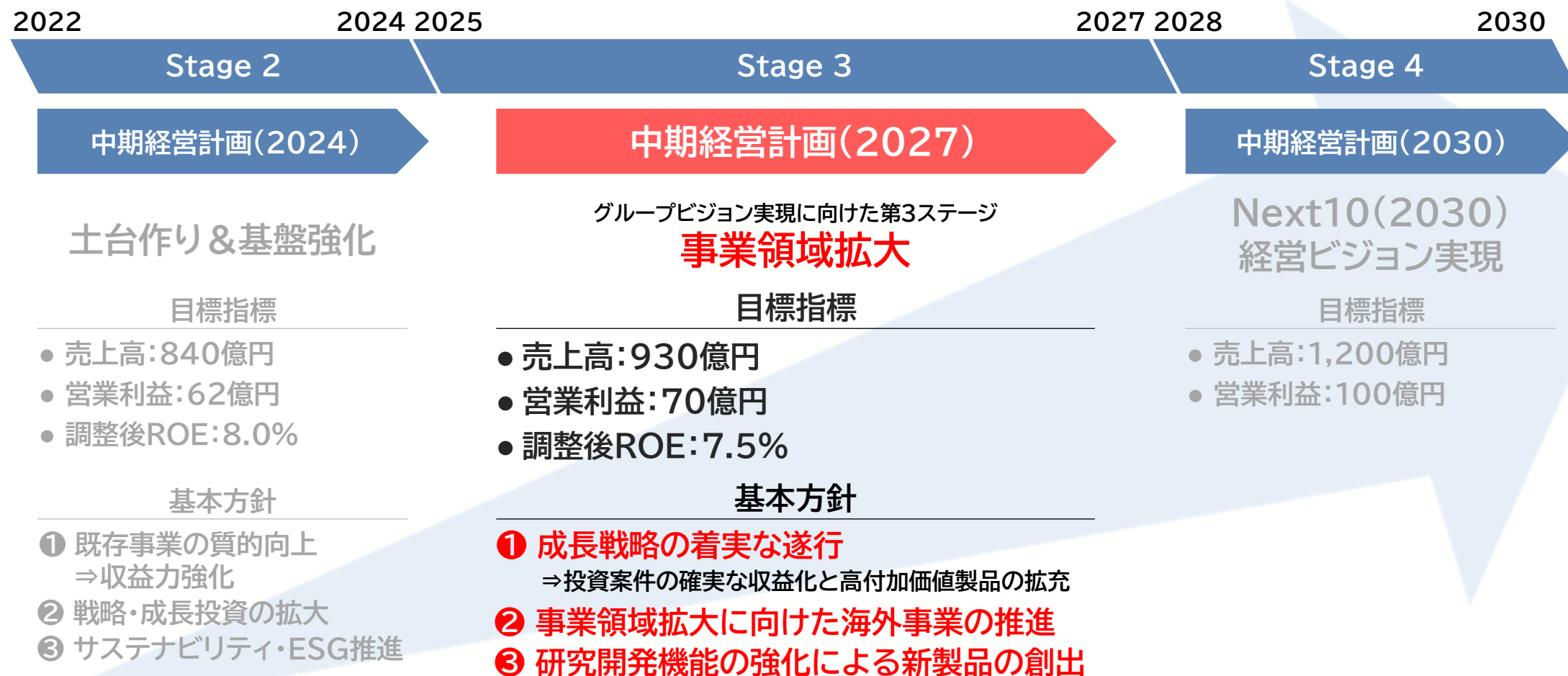
下期の取組み

- 需要が堅調なリフォーム市場への拡販と生産効率の改善を推進し、基盤事業での安定した利益を獲得
- 高瀬工場でのJAS認証取得により本格的な生産・販売を開始



3. 中期経営計画(2027)の進捗

中期経営計画(2027)の位置づけ

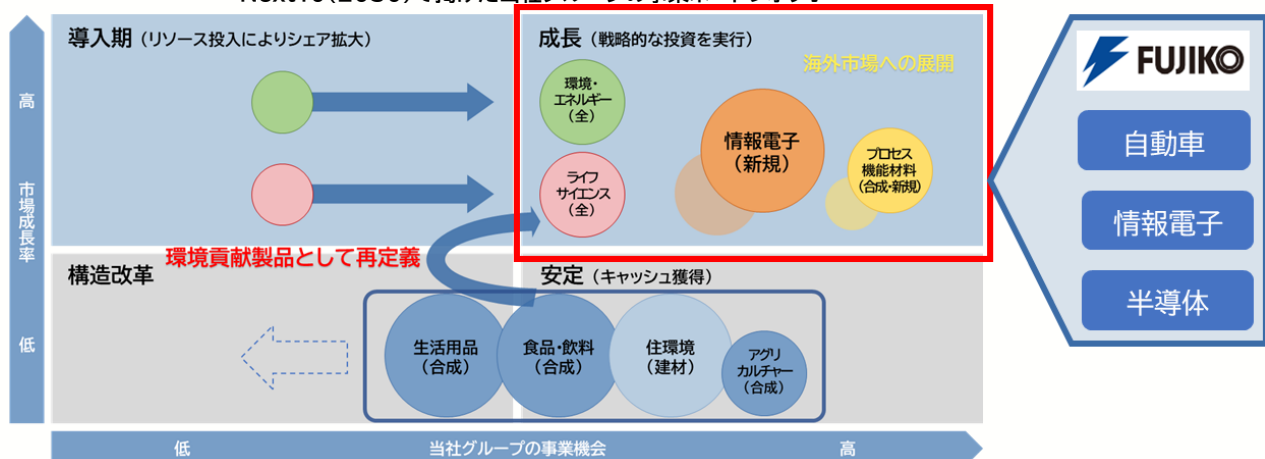


「基本方針①：成長戦略の着実な遂行」の進捗 ～株式会社フジコー株式取得～

2026年1月に株式会社フジコーの全株式を取得し、連結子会社

【株式取得の狙い① 事業ポートフォリオ変革の原動力】

Next10(2030)で掲げた当社グループの事業ポートフォリオ



フジコーは自動車、情報電子、半導体関連など成長分野で、優れたフィルム加工技術により、顧客との強固な関係を構築している

【株式取得の狙い② 垂直統合型の開発・生産体制の構築】



統合シナジーの確実な具現化と初期成果

調達・販売	グループ調達力の最大活用による原材料コストの適正化、およびブランド力・安定供給を強みとした販売強化により、 営業利益率が2倍に向上
製造	香川県内の生産統合・最適化に着手。生産性向上によるコスト競争力の更なる強化を図る
開発	素材から加工までを垂直統合し、市場優位性の高い新製品の共同開発を推進中

中長期の成長を見据えた先行投資の加速

- 医薬、半導体、情報電子等の成長分野への拡販に向け、フジコーにてグラビアコーティング機の導入を決定

【投資概要】

- ・ 投資金額：11.6億円
- ・ 設置場所：大倉工業 丸亀工場
- ・ 稼働予定：2028年



⇒本投資により2.5億円の営業利益増を見込む

統合効果による収益寄与が拡大する見通しから、**2030年の同社営業利益目標を10億円から15億円へ上方修正**

※ 2026年1月時点での2026年営業利益は5億円を予想

「基本方針①：成長戦略の着実な遂行」の進捗 ～BOEとの関係強化による光学フィルムの拡大～

2026年3月にBOEとの合併契約を締結し、
同社とのパートナーシップを強化

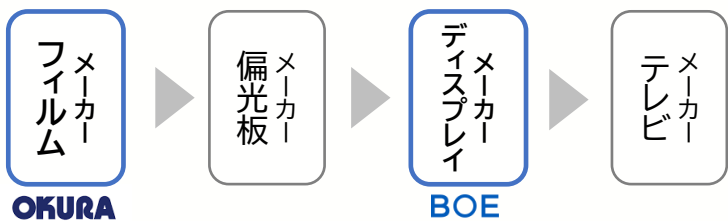
【合併会社の概要】

社名	合肥京倉新材料科技有限公司
所在地	中華人民共和国安徽省合肥市
代表者	王子涛
設立	2026年3月31日
事業内容	ディスプレイ向け偏光板用光学フィルム製造販売
資本金	6億人民元(約134億円)
出資比率	BOE 66%、大倉工業 34%

BOE

- ディスプレイデバイス、スマートシステム、ヘルスサービスを主力とする
世界トップのディスプレイメーカー
- 現在は、偏光板メーカーを経由して取引している当社の間接的な顧客

【光学フィルムの主な商流(当社とBOEの位置づけ)】



市場拡大と高付加価値化の進展

- TV市場の大画面化傾向の継続に伴い、偏光板需要年率2～4%で伸長
- 高精細、高輝度、広視野角といった性能向上により、液晶テレビの高機能化が進展
⇒ディスプレイ市場の拡大と高付加価値化の牽引役がBOE

BOEとの関係強化による光学フィルム拡大の道筋

現在～合併会社の製造ライン稼働まで

- **BOEとの強固なパートナーシップを基盤に、既存光学フィルムの拡販**
⇒BOEのハイエンドディスプレイ向けに供給中の、当社高付加価値フィルムを軸に、同社の市場支配力と販売力を最大限に活用し、市場シェアのさらなる拡大を目指す

合併会社の製造ライン稼働後（2028年以降）

- **ハイエンドで培った実績を活かし、高付加価値フィルムの採用範囲を拡大させることで、業界におけるデファクトスタンダードの確立を図る。**
- **最先端のディスプレイ技術へのアクセスと共同開発を一段と加速させ、光学フィルムの新たな領域へと進出**

「基本方針①：成長戦略の着実な遂行」の進捗 ～四国地域材を活用した 木質構造材料事業～

【事業の流れ】

事業
パート
ナー

<森林資源>



<製材(ラフ・ラミナ)>



<JAS製材・集成材>



<木材・部材加工>



<建 設>



オークラハウス・協力業者など
オークラプレカットシステム・



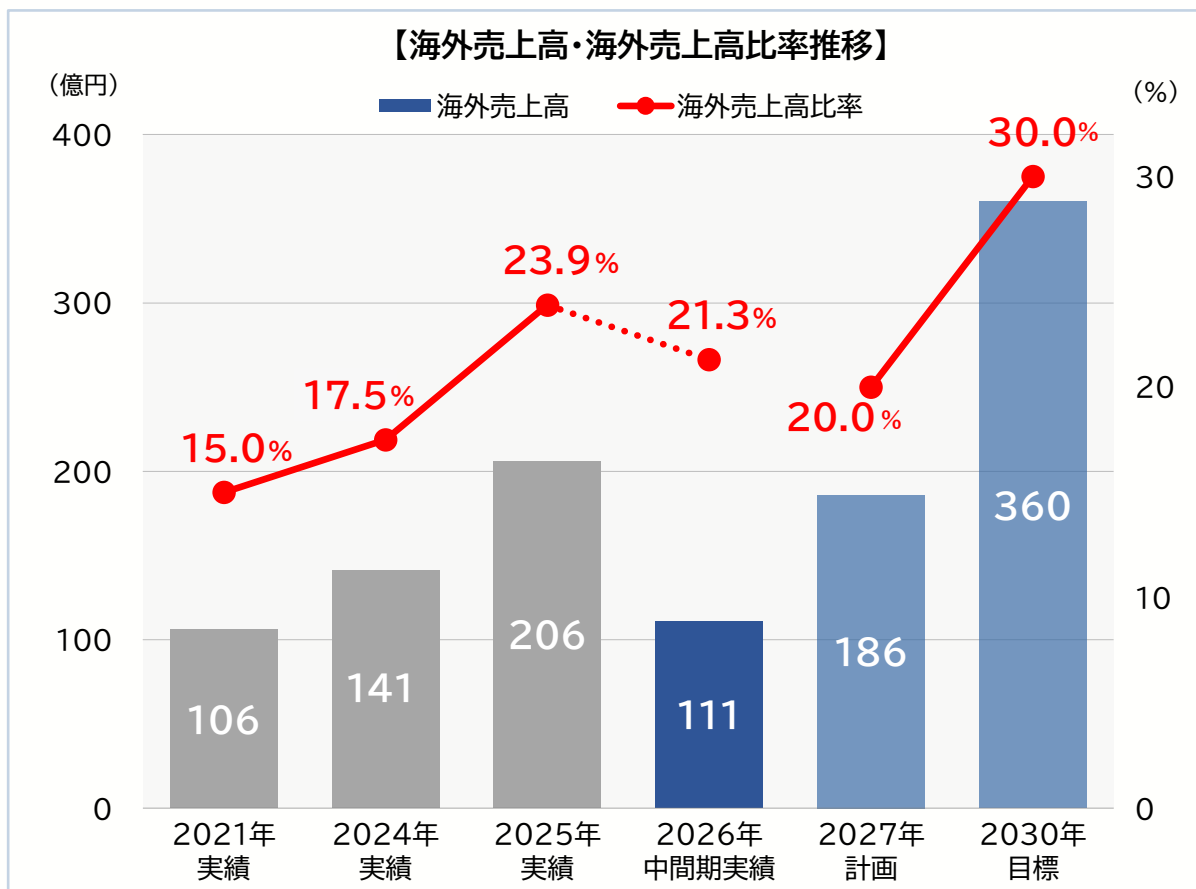
高瀬工場

- 2025年3月:集成材工場棟竣工
- 2025年4月:工場操業業務を受託する子会社
(株)オークラBMワークスを設立
- 2026年4月:事業開始。製造は計画通りに推移
- 2026年8月:JAS製品の製造・販売を開始

四国地域産の木材と技術を最大限に利活用し、
事業拡大、脱炭素社会を実現

「事業戦略 基本方針②：事業領域拡大に向けた海外事業の推進」の進捗

【中計方針】経営資源を投入し、情報電子・プロセス機能材料を中心に海外向け売上を拡大



海外向け製品の拡販に向けて

- 合成樹脂事業のライフ＆パッケージBUは、海外拠点を活用した製造競争力を強化
- 新規材料事業の光学フィルムは、BOEとの関係強化による光学フィルム拡大を図る

オクラベトナムでの事業開始に向けて

- 2026年4月から稼働を開始し、社内認定用の試作を実施中

「事業戦略 基本方針③：研究開発機能の強化による新製品の創出」の進捗

【中計方針】新製品テーマ創出・開発・上市のサイクルを加速させ、当社事業をリードする

R&Dセンターを中心に4つの成長領域（情報電子、環境・エネルギー、ライフ＆ヘルスケア、モビリティ）を通じて材料と技術を提供し、人々の生活をより良くすることを目指す

情報電子



LCPフィルム

光学フィルム
(塗工/保護/他)

タッチセンサーフィルム

環境・エネルギー



ペロブスカイト太陽電池

各種複合部材

モノマテリアル

ライフ＆ヘルスケア

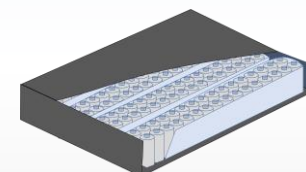


シングルユースバッグ

手術支援ロボットドレープ

植物抽出 食品包装用フィルム

モビリティ



自動車用天井材

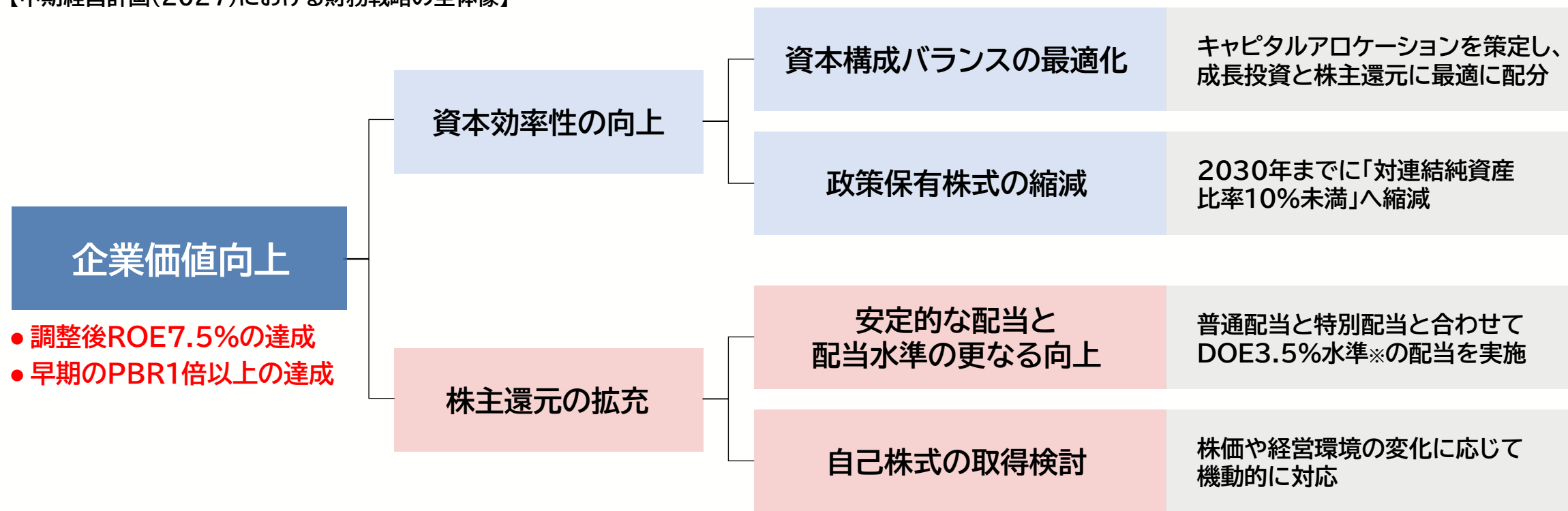
塗装代替フィルム

EV向け接着剤

「財務戦略：株主還元の拡充」の進捗

【中計方針】資本効率性の向上と株主還元の拡充により、成長戦略を支え、企業価値の向上を図る

【中期経営計画(2027)における財務戦略の全体像】



※計画策定時

「財務戦略：株主還元の拡充」の進捗

配当方針

- ① 株主還元を経営上の最重要課題の一つとして位置づけ、継続的かつ安定的な配当を目指す
- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の一環として、利益還元強化の姿勢をより明確に示すために、従来の配当性向指標に加えて、DOE(連結自己資本配当率)指標を導入

配当 目標指標

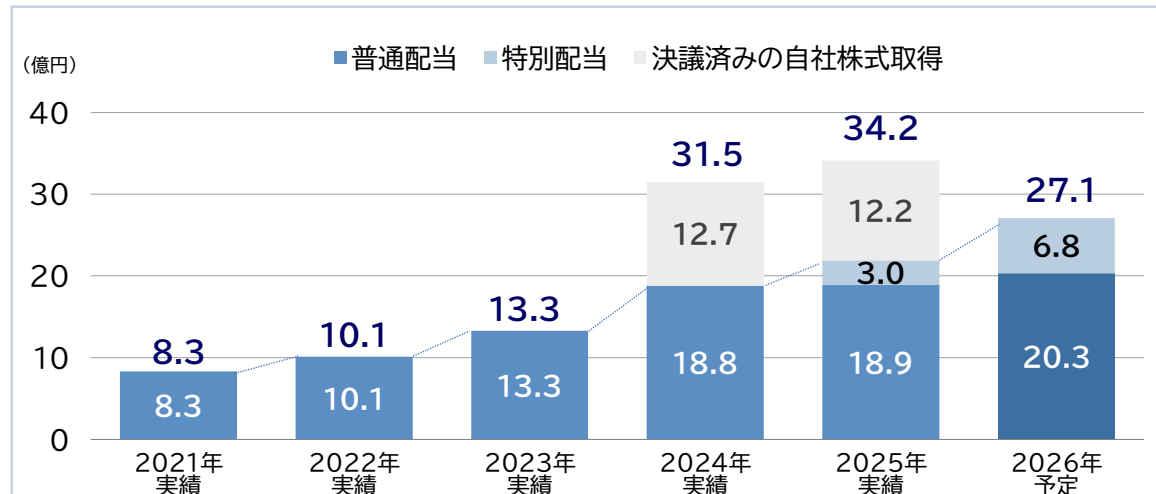
安定した利益配分	DOE:4.0% 水準 (普通配当:3.0%以上、特別配当:1.0%水準)
業績変動利益配分	配当性向:30% 以上

自己株式 取得方針

株価や経営環境の変化に応じて機動的に対応

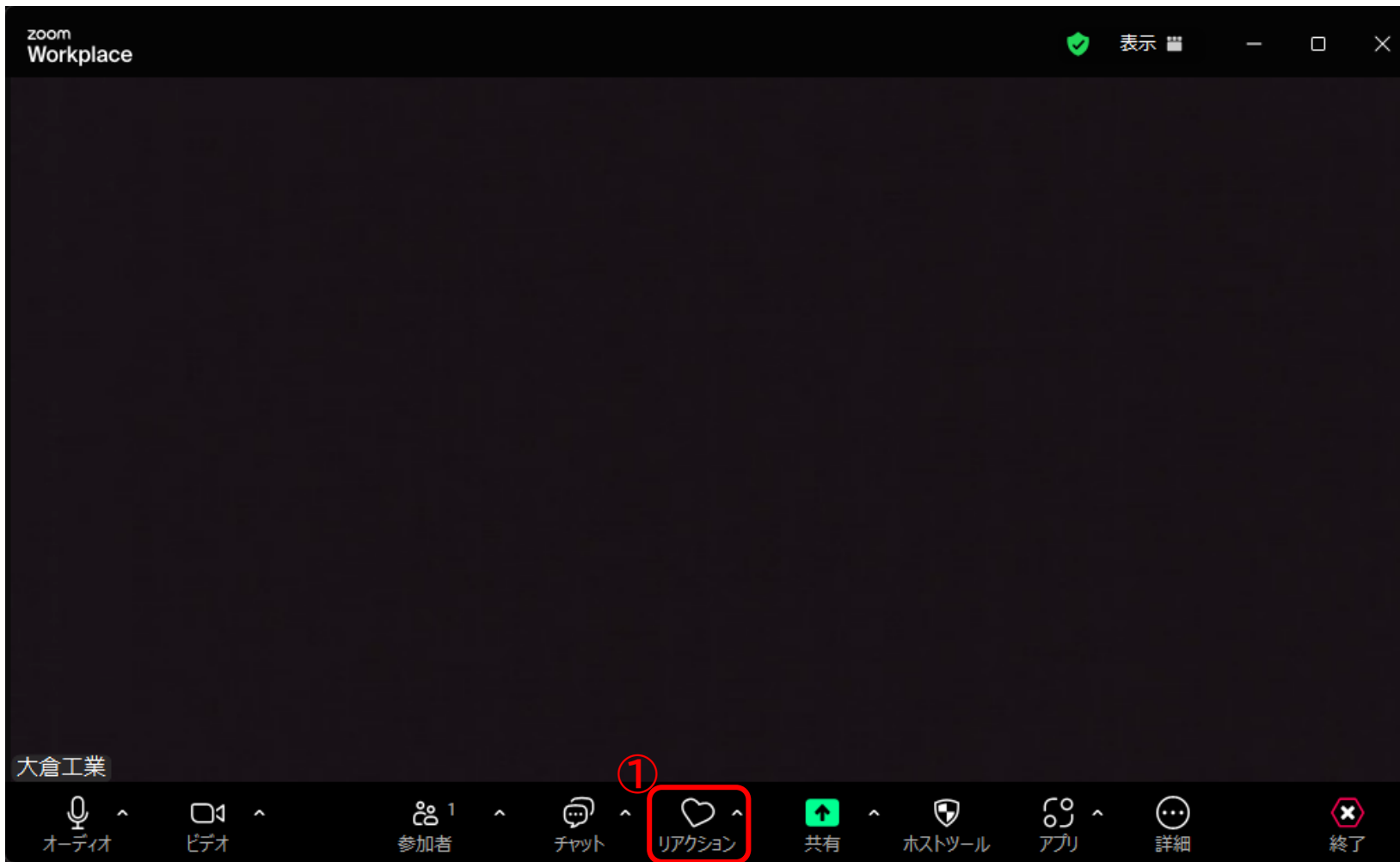
【株主還元推移】

	2024年実績	2025年実績	2026年予定
配 当 目 標	DOE:3.0%	DOE:3.5%	DOE:4.0%
※特別配当を含む	配当性向:30%	配当性向:30%	配当性向:30%
配 当 総 額	18.8億円	22.0億円	27.1億円
配 当 性 向	44.6%	58.2%	47.1%
総 還 元 性 向	72.5%	89.9%	47.1%
1株当たり配当金 (中間/期末)	160円 (55円/105円)	195円 (95円/100円)	220円→240円 (110円/130円)



当期純利益の増益を踏まえ、2026年の1株当たり配当金を当初予定の220円から240円へ増額

質疑応答

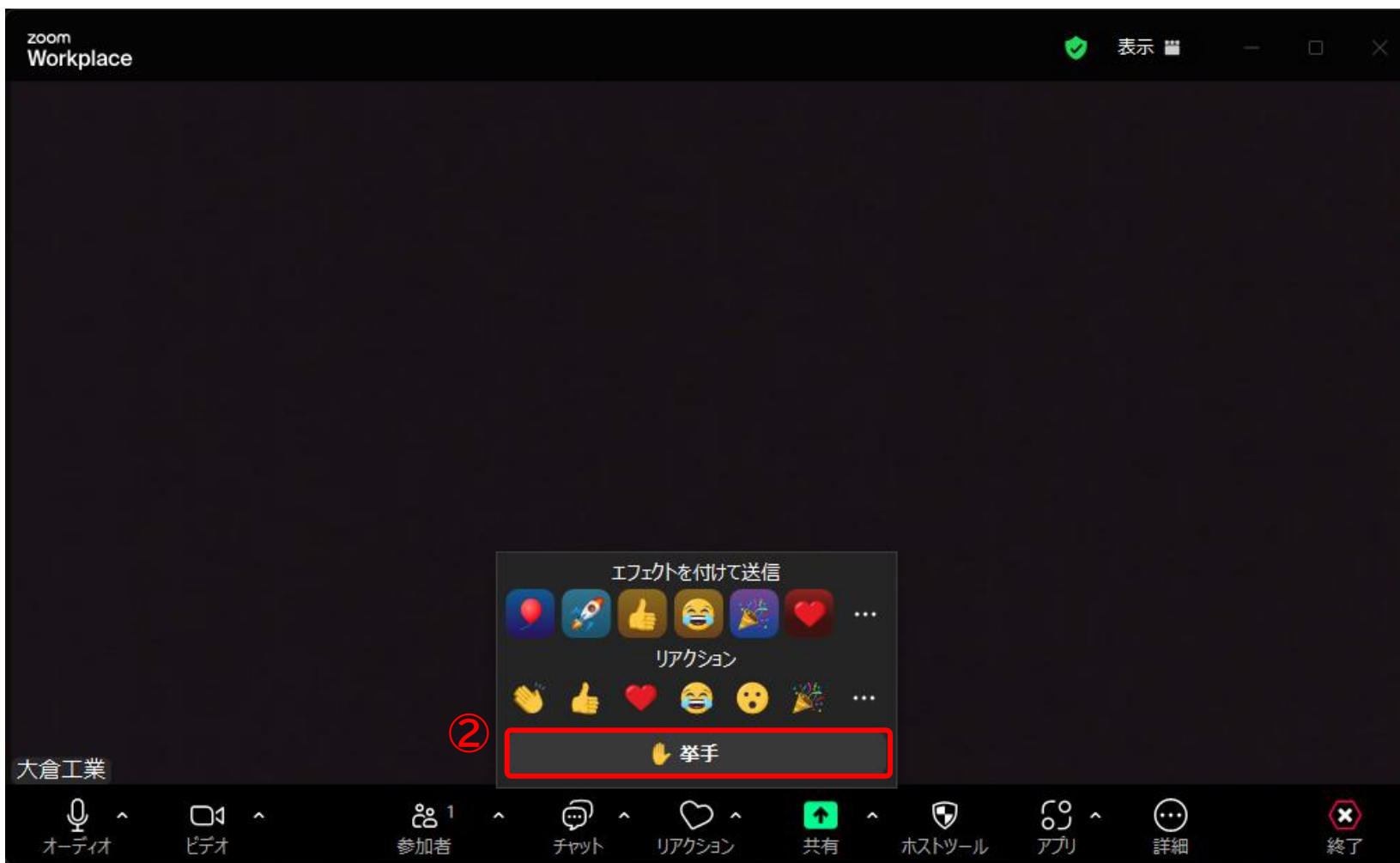


①画面下部にある「リアクション」ボタンをクリックしてください。

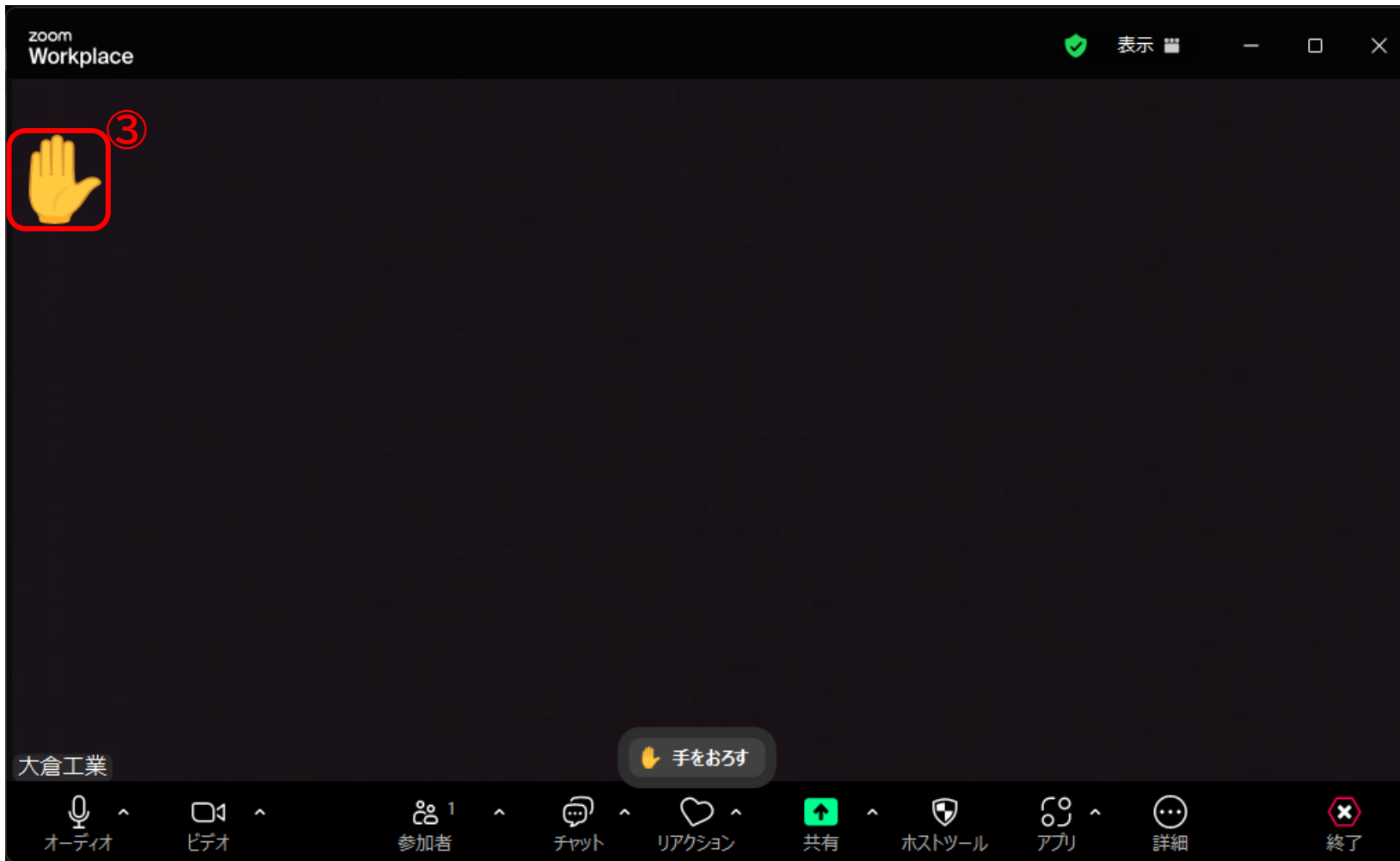
②メニューが表示されますので、「挙手」ボタンをクリックしてください。

③画面左上に手のアイコンが表示されます。司会者より順に指名致しますのでお待ちください。

④質疑応答が終わりましたら、「手をおろす」ボタンをクリックしてください。



- ①画面下部にある「リアクション」ボタンをクリックしてください。
- ②メニューが表示されますので、「挙手」ボタンをクリックしてください。
- ③画面左上に手のアイコンが表示されます。司会者より順に指名致しますのでお待ちください。
- ④質疑応答が終わりましたら、「手をおろす」ボタンをクリックしてください。

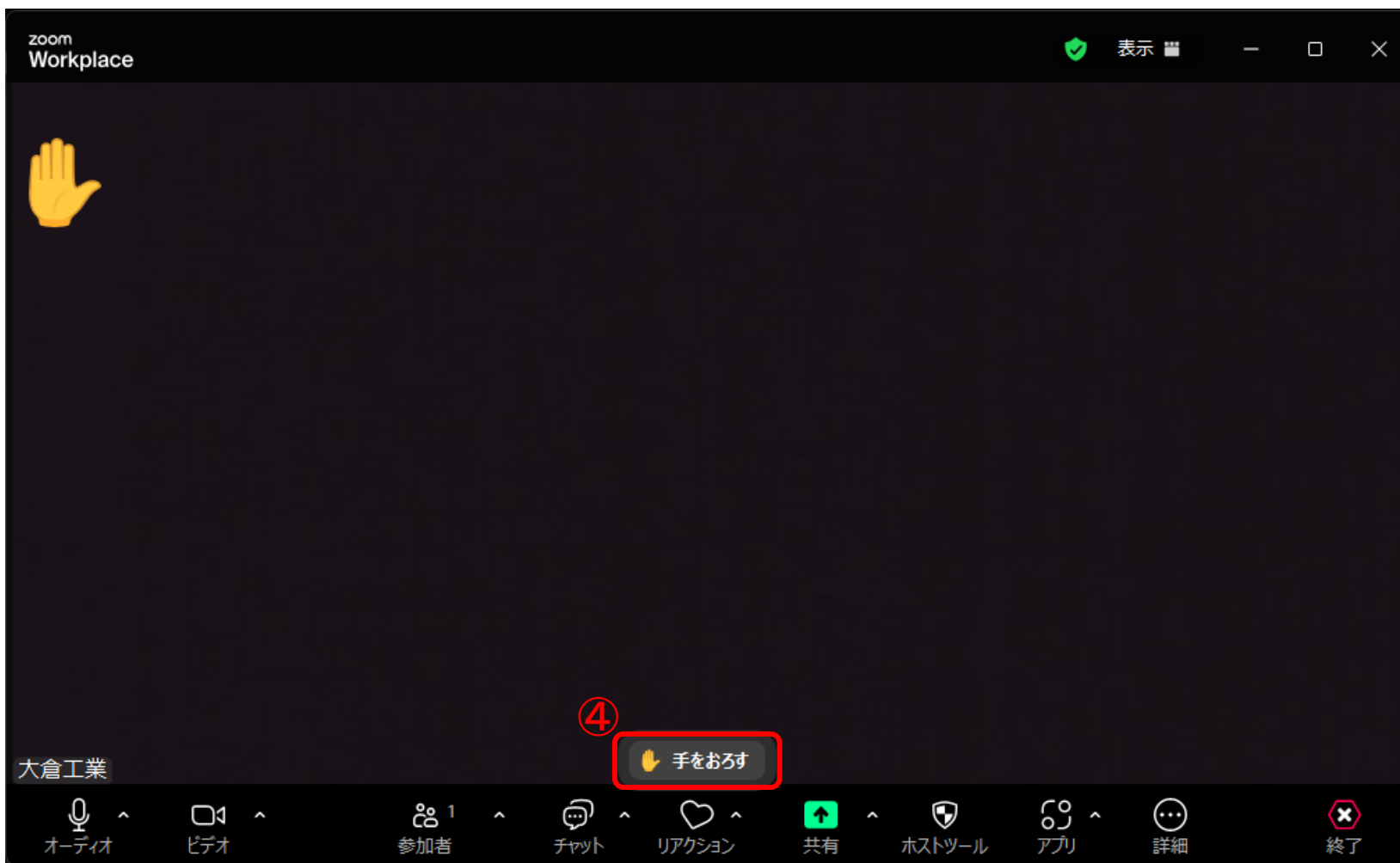


①画面下部にある「リアクション」ボタンをクリックしてください。

②メニューが表示されますので、「挙手」ボタンをクリックしてください。

③画面左上に手のアイコンが表示されます。司会者より順に指名致しますのでお待ちください。

④質疑応答が終わりましたら、「手をおろす」ボタンをクリックしてください。



- ①画面下部にある「リアクション」ボタンをクリックしてください。
- ②メニューが表示されますので、「挙手」ボタンをクリックしてください。
- ③画面左上に手のアイコンが表示されます。司会者より順に指名致しますのでお待ちください。
- ④質疑応答が終わりましたら、「手をおろす」ボタンをクリックしてください。

質疑応答



2026年12月期第2四半期(中間期) 決算説明資料

END

2026年8月3日
 大倉工業株式会社
証券コード: 4221

免責事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

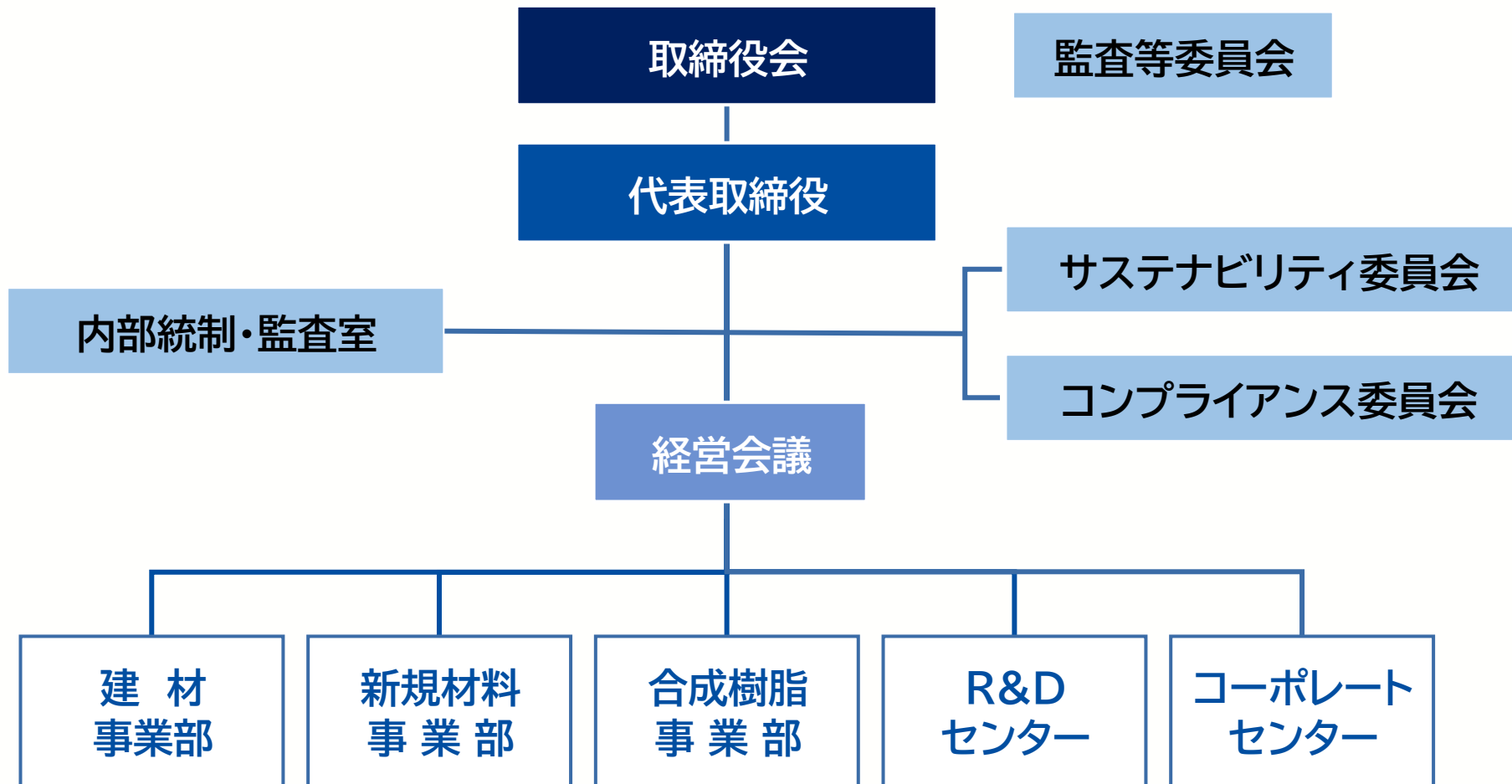
4. 参考資料



会社概要

証 券 コ ー ド	4221 東証プライム市場 業種 化学																						
社 名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co., Ltd.																						
本 社 所 在 地	香川県丸亀市中津町1515番地																						
設 立	1947年7月11日																						
従 業 員 数	連結 2,211名 単体 1,072名 (2026年6月末)																						
事 業 内 容	合成樹脂事業:各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売 新規材料事業:光学機能性フィルム等の製造販売 建材事業:パーティクルボード、加工ボード、加工合板、木材加工、宅地造成及び建物建築等の製造販売																						
グ ル ー プ 会 社	連結子会社・非連結子会社(国内14社、海外2社)																						
	<table><tr><td>(株)KSオークラ</td><td>(株)九州オークラ</td><td>(株)埼玉オークラ</td><td>(株)カントウ</td></tr><tr><td>(株)オークラプロダクツ</td><td>(株)オークラパック香川</td><td>(株)ユニオン・グラビア</td><td>(株)フジコー</td></tr><tr><td>(株)オークラプレカットシステム</td><td>(株)オークラハウス</td><td>(株)オークラBMワークス</td><td>オークラホテル(株)</td></tr><tr><td>オークラ情報システム(株)</td><td>大倉産業(株)</td><td>無錫大倉包装材料有限公司</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">OKURA VIETNAM CO.,LTD.(オークラベトナム)</td></tr></table>			(株)KSオークラ	(株)九州オークラ	(株)埼玉オークラ	(株)カントウ	(株)オークラプロダクツ	(株)オークラパック香川	(株)ユニオン・グラビア	(株)フジコー	(株)オークラプレカットシステム	(株)オークラハウス	(株)オークラBMワークス	オークラホテル(株)	オークラ情報システム(株)	大倉産業(株)	無錫大倉包装材料有限公司		OKURA VIETNAM CO.,LTD.(オークラベトナム)			
	(株)KSオークラ	(株)九州オークラ	(株)埼玉オークラ	(株)カントウ																			
	(株)オークラプロダクツ	(株)オークラパック香川	(株)ユニオン・グラビア	(株)フジコー																			
	(株)オークラプレカットシステム	(株)オークラハウス	(株)オークラBMワークス	オークラホテル(株)																			
	オークラ情報システム(株)	大倉産業(株)	無錫大倉包装材料有限公司																				
OKURA VIETNAM CO.,LTD.(オークラベトナム)																							
関連会社(国内4社、海外2社)																							
<table><tr><td>大宝(株)</td><td>オー・エル・エス(有)</td><td>大友化成(株)</td><td>尤妮佳包装材料(天津)有限公司</td></tr><tr><td>合肥京倉新材料科技有限公司</td><td></td><td>中讃ケーブルビジョン(株)</td><td></td></tr></table>			大宝(株)	オー・エル・エス(有)	大友化成(株)	尤妮佳包装材料(天津)有限公司	合肥京倉新材料科技有限公司		中讃ケーブルビジョン(株)														
大宝(株)	オー・エル・エス(有)	大友化成(株)	尤妮佳包装材料(天津)有限公司																				
合肥京倉新材料科技有限公司		中讃ケーブルビジョン(株)																					

組織図



業所(本社構内)

地 〒763-8508
(表)

丸亀工場
新規材料事業部(B棟)

(北棟・G棟・H棟)

大阪支店

東京支店

丸亀工場
新規材料事業部(A棟)

大倉工業の始まり

創業者 松田正二が
長年お世話になった

松田正二が
10年勤めた

倉敷紡績 社長
大原總一郎氏

倉敷紡績株式会社

「将来は倉敷紡績より大きくなりたい」という希望を込めて...

1955年11月 **大倉工業株式会社** とした

沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1946	四国住宅製材所に商号変更
1947	四国住宅株式会社を設立
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始 ※

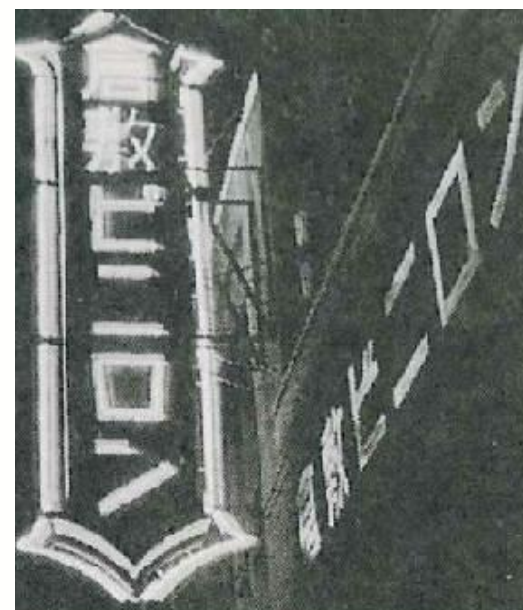
※1955年に丸亀(港町)に移転



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃



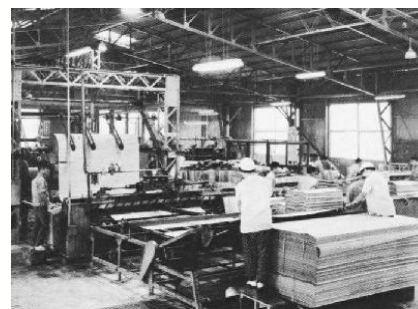
四国実業の事務所とネオンサイン

沿革 | 第一世代の偉大な歩み

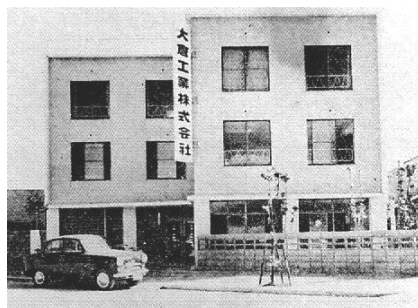
1955	【全体】大倉工業株式会社に商号変更
1956	【合成】ポリエチレンフィルム加工製造開始(港町)
1959	【合成】東京工場操業開始
1962	【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】本社工場操業開始 【建材】ラワン合板生産に進出、石膏ボード製造開始
1963	【他】「大倉産業株」を設立
1964	【建材】プリント合板製造開始
1966	【他】ハウス事業部を新設し、 土地造成並びに住宅建て売り事業開始
1967	【全体】東京証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】埼玉工場操業開始



ハウス部設立当時の建売物件



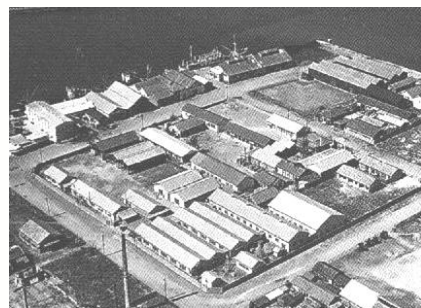
ベニア合板工場構内



高松本社ビル



高松(新材木町)本社



丸亀(港町)工場



本社工場構内

沿革 | 第二世代による事業の拡大

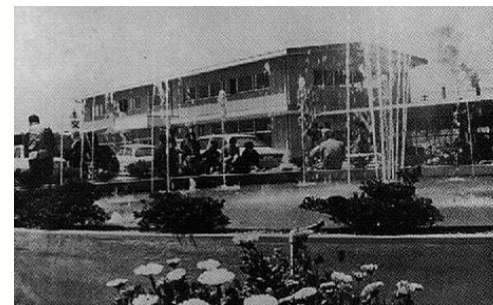
1968	【建材】詫間工場操業開始、【他】冷凍倉庫事業開始
1969	【建材】「大友化成(株)」を設立
1970	【全体】東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】パーティクルボード製造開始
1972	【全体】本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】「オークラホテル高松」がオープン
1976	【建材】パーティクルボード二次加工開始(メラハーケン)
1977	【合成】丸亀第四工場操業開始
1984	【合成】「(株)カントウ」を設立
1987	【全体】ホテル事業部と新規材料事業部を新設
1988	【他】「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	【他】「オークラ情報システム(株)」、 【合成】「(株)ユニオン・グラビア」を設立 【合成】丸亀第五工場操業開始 【他】「(株)岡山ビジネスホテル」運営開始
1995	【合成】「(株)オークラパック香川」、 「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】仲南工場操業開始



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)



丸亀(中津町)移転後の本社

沿革 | 新たな半世紀を見据えた第三世代

2000	【新規】C棟竣工、「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2003	【他】「(株)オークラハウス」を設立
2004	【全体】第一次中期経営計画がスタート 【新規】D棟竣工 【合成】「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	【全体】コーポレートセンター及びR&Dセンターを新設 【全体】第二次中期経営計画がスタート 【合成】「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】「(株)オークラプレカットシステム」を設立
2010	【全体】第三次中期経営計画がスタート



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

VISION21 国際競争で優位に立てる大倉工業

沿革 | 第四世代 技術優位な企業集団を目指して

2012	【合成】「尤妮佳包装材料(天津)有限公司」を設立
2013	【全体】第四次中期経営計画がスタート
2014	【新規】G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	【全体】第五次中期経営計画がスタート 監査等委員会設置会社に移行 【合成】「(株)オークラプロダクツ」を設立
2017	【全体】会社創立70周年
2018	【他】「オークラホテル(株)」が「(株)岡山ビジネスホテル」を吸収合併
2019	【全体】経営ビジョンNext10、第六次中期経営計画がスタート 【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)



関西オークラ(第3工場)

Next10(2030)～次の10年に向けたありたい姿～
「要素技術を通じて、新たな価値を創造し、お客様から選ばれるソリューションパートナー」

沿革 | 第四世代 技術優位な企業集団を目指して

2022	【全体】Next10をNext10(2030)に改訂 中期経営計画(2024)がスタート 【合成】「株KSオークラ」を設立
2023	【新規】「OKURA VIETNAM CO., LTD. (オークラベトナム)」を設立
2024	【新規】H棟操業開始 【建材】株オークラプレカットシステムを三豊市高瀬町に移転
2025	【全体】中期経営計画(2027)がスタート 【建材】「株オークラBMワークス」を設立 【新規】上海駐在員事務所を設立 【合成】東京支店を東京都千代田区麴町に移転
2026	【合成】「株フジコー」をグループ会社化 【新規】「合肥京倉新材料科技有限公司」を設立 【建材】「高瀬工場」の操業開始 【合成】丸亀第四工場・丸亀第五工場の2工場を統合し丸亀工場の操業開始



新規材料事業部
「OKURA VIETNAM CO., LTD」



新規材料事業部(H棟)



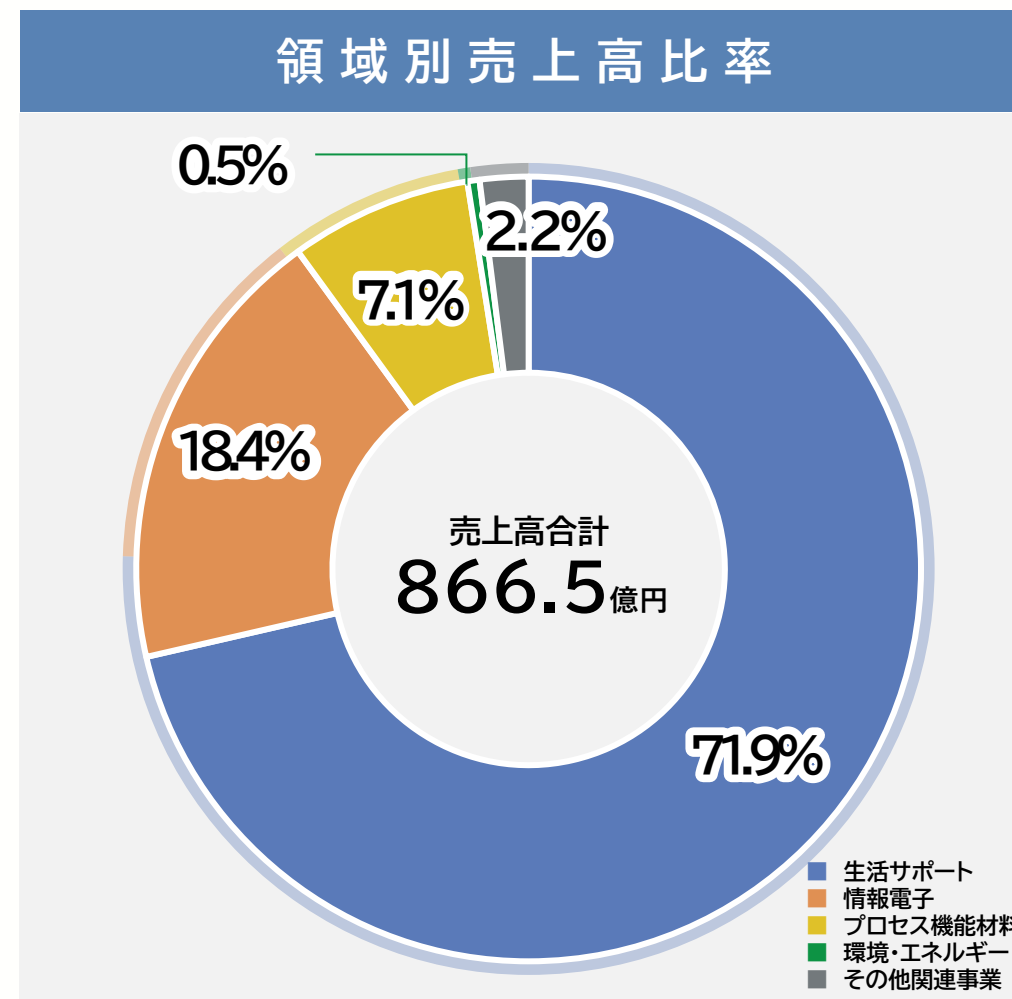
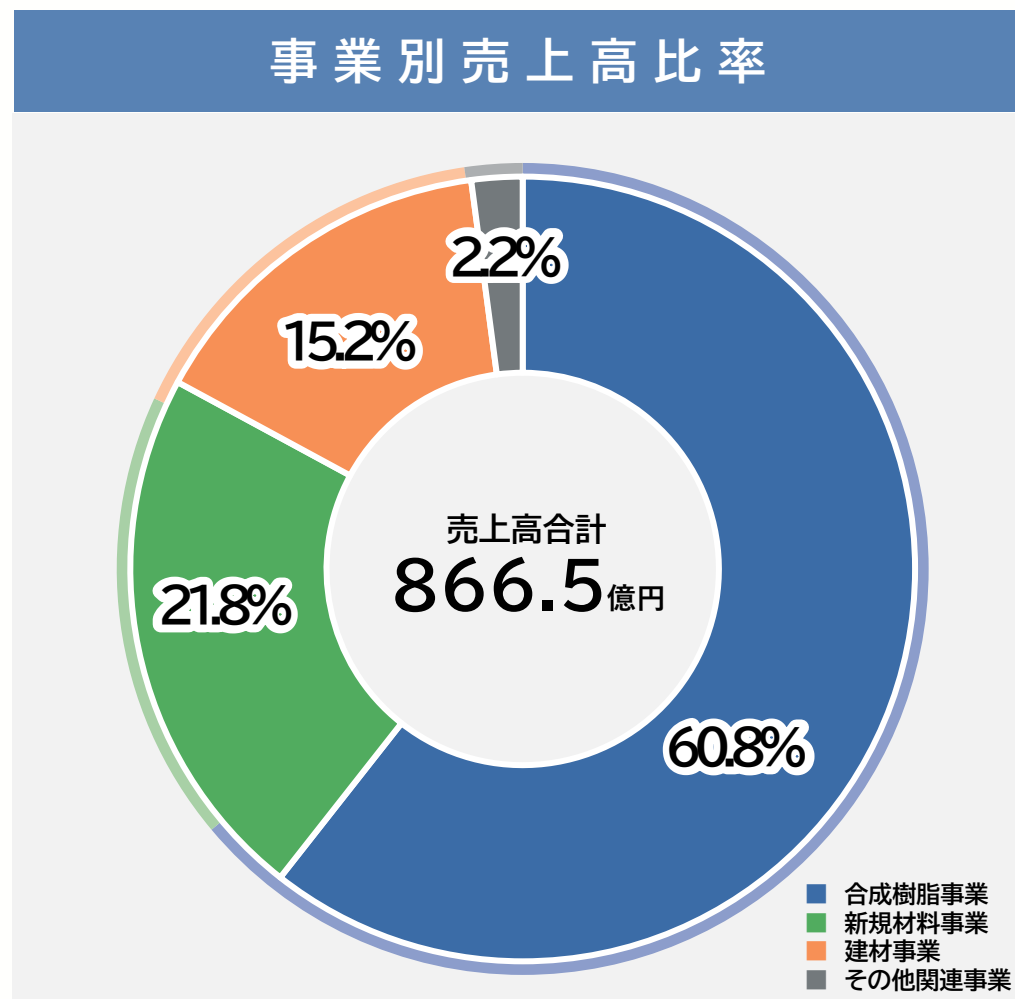
(株)オークラプレカットシステム



移転後の東京支店エントランス

Next10(2030)～次の10年に向けたありたい姿～
 「要素技術を通じて、新たな価値を創造し、お客様から選ばれるソリューションパートナー」

事業別、領域別売上高比率



※2025年12月実績

事業紹介 | 合成樹脂事業 【売上高構成比:60.8%】

ライフ & パッケージ BU

シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

【用途例】乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることで、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルム。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

【用途例】食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液（醤油、ソース等）、液体肥料、液体洗剤、接着剤



事業紹介 | 合成樹脂事業 【売上高構成比:60.8%】

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】農業用フィルム、肥料の保存



事業紹介 | 新規材料事業【売上高構成比:21.8%】

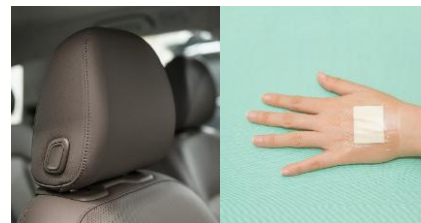
機能材料BU

TPEチーム

(ウレタンエラストマーフィルム)

ゴムの柔軟性とプラスチックの強度・硬度を併せ持つ熱可塑性ポリウレタンエラストマー樹脂(TPU)を押出形成したフィルム。透湿性、耐摩耗性、耐候性など、優れた特性を有する各種グレードを医療用途や自動車部材など各分野に提供。

【用途例】創傷用被覆保護ドレッシング、プリント接着用シート、ヘッドレスト等の発泡ウレタン注入成形用フィルム、ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム

(シームレスベルト・
高機能ローラ)

カラープリンターの高画像、高速化に必要なキーパーツとして、優れた電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【用途例】LBP用中間転写ベルト、クリーニングローラ、転写ローラ



ADHチーム

(無溶剤型アクリル系接着剤)

二液硬化、嫌気硬化、紫外線硬化の3種類の硬化系をラインナップ。車輻・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】モーターマグネット(電気自動車部品)、塗装鋼板、ゴルフクラブ、鋳型模型



MEDチーム

(医療関連)

クリーンルームでのフィルム加工技術、各種フィルムのハンドリング経験を活かし、医療用分野へ新たな製品を展開。医療現場のニーズに応える製品を提供。

【用途例】内視鏡用ウイルス防御システム、吸水機能付き検査パンツ、手術支援ロボット用ドレープ



事業紹介 | 新規材料事業【売上高構成比:21.8%】

電子材料BU（加工）／光学材料BU（製膜延伸）

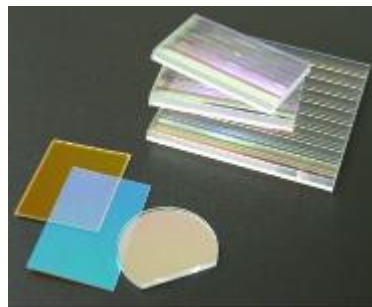
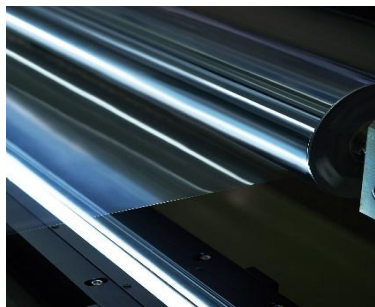
LMCチーム

KEチーム

CTチーム

MCSTRチーム

大型から中小型サイズのフラットパネルディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクターなど、電子表示体に不可欠なキーパーツとなる各種光学機能性フィルムをフラットパネルディスプレイメーカー等に提供。これらの高性能化、多様化を支え、新たな応用分野の開拓に貢献。



事業紹介 | 建材事業【売上高構成比:15.2%】

木質パネルBU

パーティクルボード (素板)

木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボードを製造。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。

【用途例】 フローリング、耐力壁、ドア、棚板、キッチン扉、キャビネット材



パーティクルボード (加工ボード)

パーティクルボードに紙やオレフィン等の化粧シートを貼ったラミネートボード。素板の表面平滑性を最大限に活かした高意匠の化粧板をキッチンメーカー等に提供。

【用途例】 棚板、キッチン扉、キャビネット材



事業紹介 | 建材事業【売上高構成比:15.2%】

木 構 造 B U

集成材事業

(株式会社オークラ
BMワークス)

ラミナと呼ばれる挽き板を積層接着した構造材料である集成材の製造し、2026年8月よりJAS品の販売を開始。原材料となるラミナは四国地域を中心とした国産材を活用し、四国の森林資源の循環利用と持続可能な森林経営、脱炭素社会の実現に貢献す。

【用途例】 建物の梁・桁等



木材加工

(株式会社オークラ
プレカットシステム)

プレカット材や、構造用耐力面材と断熱材などがセットになった省施工構造断熱パネルを提供しており、現場での安全かつ省施工な作業を実現し、職人や大工の労力軽減に寄与。株式会社オークラプレカットシステムは香川県三豊市に本社を置き、木造建屋宅用構造材加工(プレカット加工)及び木造建屋用資材(建築金物・基礎素材等)の仕入販売を実施。

【用途例】 建物の柱・梁・桁等



建築・土地造成

(株式会社オークラハウス)

県内の新築住宅建築を手掛ける。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して永く住んでもらう住宅を提供。株式会社オークラハウスは香川県丸亀市に本社を置き、新築以外にもリフォームも手掛けている。

【事業例】 分譲住宅、注文住宅、リフォーム



事業紹介 | その他関連事業【売上高構成比:2.2%】

ホテル事業

オークラホテル 株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を運営。瀬戸内海に面した立地条件を活かしたパノラマいっぱいの開放感に包まれる展望風呂や瀬戸内の食材を使用した絶品グルメで上質なホテルステイをお約束。



情報処理システム開発事業

オークラ情報 システム株式会社

香川県丸亀市に本社を構え、中核IT企業として大倉工業グループのシステム全般を設計から開発・運用保守まで一貫して担い、安定稼働を支えている。また、薬局向け業務支援システムを全国に展開し、事業領域を拡大。



鑑査レンジ® Packs2

一包化刻印照合システム | KANSA RENJI Packs2